

付属資料

合同終了時評価報告書（和文）

合同終了時評価報告書（ポルトガル語）

木材加工分野インタビュー結果


「アマパ州の氾濫原における森林資源の持続的利用計画」プロジェクト
を対象とした終了時合同評価調査に係るミニッツ

独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という）が組織した遠藤浩昭を団長とする終了時評価調査団（以下「日本側調査団」という）は、アマパ州の氾濫原における森林資源の持続的利用計画（以下「プロジェクト」という）の終了時合同評価を実施することを目的とし、2008年11月16日から12月5日までブラジル連邦共和国（以下「ブラジル」という）においてブラジル国際協力局（以下「ABC」という）が組織した Mr. Allan Ribeiro Abreu を団長とする終了時評価調査団（以下「ブラジル側調査団」という）と共に合同評価調査を行った。

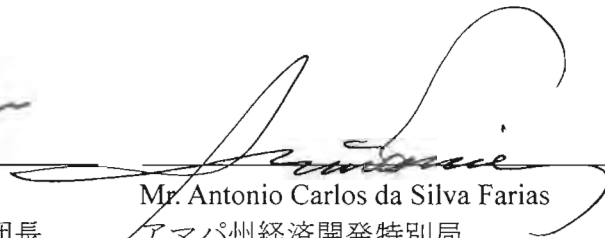
日本側調査団及びブラジル側調査団（以下「調査団」という）は、調査及び調査結果の分析を行った後、合同評価調査レポートを作成し、合同調整委員会に提出し、評価結果を説明し、プロジェクト終了までに、あるいは、終了後も、別添終了時合同評価調査レポートに掲げられる提言を実行するよう依頼した。合同調整委員会はレポートについて討議を行い、提言を受け入れることについて合意した。

本ミニッツは、等しく正文である日本語、ポルトガル語による各4通を作成した。

マカパ市, 2008年12月3日



遠藤 浩昭
終了時合同評価調査団 日本側調査団長
独立行政法人 国際協力機構 地球環境部
森林・自然環境保全第二課 課長
日本国



Mr. Antonio Carlos da Silva Farias
アマパ州経済開発特別局
局長
ブラジル連邦共和国



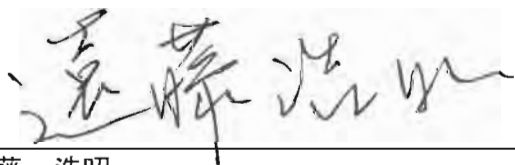
Mr. Allan Ribeiro Abreu
終了時合同評価調査団 ブラジル側調査団長
ブラジル環境再生可能天然資源院
環境アナリスト
ブラジル連邦共和国



Mr. João da Cunha Mourão Neto
プロジェクト・ダイレクター
アマパ州森林院
所長
ブラジル連邦共和国

「アマパ州の氾濫原における森林資源の持続的利用計画」プロジェクト
を対象とした終了時合同評価調査報告書

マカパ市, 2008 年 12 月 3 日



遠藤 浩昭
終了時合同評価調査団 日本側調査団長
独立行政法人 国際協力機構 地球環境部
森林・自然環境保全第二課 課長
日本国



Mr. Allan Ribeiro Abreu
終了時合同評価調査団 ブラジル側調査団長
ブラジル環境再生可能天然資源院
環境アナリスト
ブラジル連邦共和国

1. 序文

2005年8月23日に日本とブラジル政府との間で署名された討議議事(R/D)に基づき、2005年11月2日から3.5年間の「アマパ州氾濫源における森林資源の持続的利用計画」(以下、「プロジェクト」という)が開始された。

本報告書は、プロジェクト協力期間の終了時5ヶ月前に実施された終了時評価の合同報告書である。

1.1 調査の目的

調査の目的は以下のとおりである。

- (1) 2009年5月のプロジェクト終了を前に、活動実績及び実施プロセスを確認し、ブラジル国側調査団と日本側調査団は合同で評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)の観点からプロジェクトの評価を行う。
- (2) プロジェクト終了後の自立発展強化に提言を導き出すと共に、類案件等にも活用可能な教訓を導き出す。

1.2 合同評価調査団メンバー

(1) 日本側評価調査団

タイトル	所属先	氏名
総括/団長	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 森林・自然環境保全第二課 課長	遠藤 浩昭
木材加工	(株)たくみ塾	庄司 修
評価分析	(株)国際開発アソシエイツ	廣内靖世
協力計画	JICA ブラジル事務所 所員	井上ジュリオ

(2) ブラジル側評価調査団

タイトル	所属先	氏名
団長	ブラジル環境再生可能天然資源院 森林・生物多様性持続的利用部(IBAMA/DBFLO)	Allan Ribeiro Abreu
団員	ブラジル環境再生可能天然資源院 森林・生物多様性持続的利用部(IBAMA/DBFLO)	Marcos Alexandre Bauch
団員	ブラジル環境再生可能天然資源院 森林・生物多様性持続的利用部(DITEC/IBAMA/AP)	Alirio de Macedo Mory

1.3 評価スケジュール

本評価調査は2008年11月15日から12月4日にかけて行われた。合同評価団は、実施機関のカウンターパート(C/P)、専門家、協力機関の関連スタッフ、受益者への質問票やインタビューによって情報を収集した。また、同評価団は、11月28日～11月29日にターゲット・サイトであるマラカ地区とマザゴン地区の視察を行った。これらの結果をもとに、合同評価団は合同評価報告書案を作成し、12月1日から12月2日の合同評価委員会における協議を経て、報告書を完成させた。

1.4 PDM のレビュー

JICA の技術協力の評価の際は、プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) が基本的な文書の一つとして利用される。評価を始めるにあたって、合同評価団が PDM をレビューした結果、評価用 PDM (PDMe) を作成し、評価の基礎とすることを合意した。PDMe は、ブラジル側アウトプット責任者及び専門家チームとの協議をもとに作成された (別添 1 参照)。

2. プロジェクトのアウトライン

2.1 プロジェクトの背景

ブラジル国 (面積 852.2 万 K m²、人口約 1 億 8 千万人) は世界の熱帯雨林面積の約半分を占めるアマゾン森林地帯を有しているが、近年は森林破壊が進み、森林面積は急速に減少している。アマゾン河とその支流域に広がる氾濫原は、豊富な森林資源に恵まれ、また貴重な生態系を有している。一方、氾濫原は近年、木材伐採による大きな人為的圧力を受け深刻な森林資源の劣化が進んでいる。下流部に位置するアマパ州の氾濫原地域では、まだ大規模な森林伐採は進んでいないが、氾濫原地域に居住する住民 (川岸住民) は、木材の伐採に生計の大部分を依存しており、不安定な経済基盤の上で生活している。アマパ州の一人当たりの GDP はブラジル平均の約 65%、貧困率は 42% と貧しい地域であるが、特に、マザゴン・ベリョの貧困率は 67% と州内でも 3 番目に高い。川岸住民が伐採する木材の主要販売先である州都マカパ市は、家具産業を地場の特産として潜在的可能性をもっている。しかしながら、木材の利用が効率的でない上、木材の加工技術、家具の製造技術も低いため、国内の他地域と比較しても競争力が低いのが現状である。このため、川岸住民は木材を非常に安価な価格で販売せざるを得ない状況になり、生計のために無計画な伐採を行う悪循環につながっている。

今後これまでのような住民による無計画な伐採等による不適切な森林管理、木材利用が続けば、アマパ州に残された氾濫原地域の貴重な森林資源がこれまで以上に急激に減少し、川岸住民の生活にも多大な影響が生じることが想定されるが、アマパ州政府においては、その氾濫原あるいは氾濫原林の管理について規定されている包括的な法律や政策は存在しておらず、適切に管理するための体制も存在していない。そのため、アマパ州政府は同地域の森林保全に関する支援を、ブラジル政府を通じ我が国に要請した。この要請に基づき、本プロジェクト「アマパ州の氾濫原における森林資源の持続的利用計画」では 2005 年 11 月～2009 年 5 月までの 3.5 年間を協力期間として、川岸住民の伐採依存型の生計を改善するために、森林資源の活用方法の改善と持続的な森林管理を支えていくのに必要な基本方針の策定、体制づくりに協力する。その方針に基づき、アマパ州各行政機関が主体となり、代替手段として既存研究結果などを活用したアグロフォレストリー技術の普及、また、川岸住民が計画的・持続的に森林伐採を行えるように家具加工業者と契約生産を実施するためのモデル構築に関する支援を行う。このような協力の結果、森林資源の活用方法が改善され、川岸住民の生計が向上することが期待される。

2.2 プロジェクトの概要

- (1) 協力期間: 3.5 年 (2005 年 11 月 2 日～2009 年 5 月 1 日)
- (2) 主な相手国機関名: アマパ州森林院 (IEF)、アマパ州農村開発院 (RURAP)、アマパ州商工鉱局 (SEICOM)

- (3) プロジェクト・エリア:アマパ州マザゴン郡マザゴン・ベリョ及びマラカの氾濫原地帯
- (4) 上位目標:アマパ州氾濫原プロジェクト・エリアの森林資源が持続的に活用され、川岸住民の生計が改善される。
- (5) プロジェクト目標:アマパ州氾濫原のプロジェクト・エリアにおいて、川岸住民の生計向上に資する森林資源の活用方法が改善される。
- (6) アウトプット
 - 1) アマパ州政府に、プロジェクト・エリア内の氾濫原における森林資源の持続的活用のための技術的枠組が構築される。
 - 2) 川岸住民により持続的森林管理が実践される。
 - 3) 川岸住民によりアグロフォレストリー・システムが導入される。
 - 4) 川岸住民と家具産業の連携体制が構築され、強化される。

3. 評価方法

3.1 データ収集方法

日本側、ブラジル側双方による合同評価調査団は、PDMe(別添1)、最新 PO(別添2)、過去のプロジェクト記録等の資料調査、プロジェクト関係者への質問票調査及び聞き取り調査、また現地視察を行い、データを収集した。

3.2 分析項目

3.2.1 プロジェクトの実績

R/D 及び PDM の計画に沿ってプロジェクトの投入、アウトプット、プロジェクト目標が達成された度合いを検証する。

3.2.2 実施プロセス

プロジェクトの実施過程全般を見る視点であり、活動が計画通り行われているか、またプロジェクトのモニタリングやプロジェクト内のコミュニケーションが円滑に行われているか等を検証する。

3.2.3 評価5項目

- (1) 妥当性:プロジェクト目標及び上位目標が、ブラジル国・アマパ州・受益者のニーズ、ブラジル国及び日本国の優先度、日本の技術的な優位性等の観点から、評価時点でも妥当かどうかを評価する。
- (2) 有効性:プロジェクト目標達成の見込みはあるか。阻害要因はあるか、アウトプットの達成度はプロジェクト目標の達成に十分か、アウトプットとプロジェクト目標の間に論理的整合性はあったかなどを評価する
- (3) 効率性: 投入に見合ったアウトプットが産出されているか、投入のタイミング・質・量はアウトプット産出には適切だったか、などを評価する。
- (4) インパクト:上位目標達成の見込みはあるか、その他、プラスのインパクトは確認されるか、予期していなかった負のインパクトはあるか(予測されるか)、マイナスのインパクトがある場合、それに対する対策は講じられているかを評価する。
- (5) 自立発展性(見込み):プロジェクトで実施・支援している、農林協会による森林管理計画の取得及びそれに基づいた森林管理活動、アグロフォレストリ

一活動、及び農林協会とアマパ州家具業界との連携は、プロジェクト終了後も持続的に実施可能か、組織・制度面、財政面、技術面から評価する。

4. プロジェクトの実績と実施プロセスの検証

4.1 プロジェクトの実績¹

4.1.1 投入の実績

表 1: ブラジル側投入

C/P の配置	管理 C/P: 3 名 技術 C/P: 13 名	実施経費 (2008 年 9 月まで)	R\$ 410,586
---------	-----------------------------	------------------------	-------------

表 2: 日本側投入

専門家派遣:	長期: 1 名 短期: 合計 2 名 ローカル: 合計 2 名	供与機材	22,922 千円
研修員受け入れ	合計 6 名	在外事業強化費 (2008 年 9 月まで)	R\$1,442,179

4.1.2 アウトプットの実績

(1) アウトプット1

- 1) 2008 年 11 月策定予定の基本方針に係る作業は若干遅れているが、基本方針の素案は既に策定されている。素案は、同年 12 月の検討委員会によって最終化され、2009 年 3 月開催予定の第 8 回合同調整委員会(JCC)会合によって承認される見込みである。
- 2) 2007 年 4 月に、氾濫原の森林資源の持続的利用に係る政策の執行担当機関として、アマパ州政府内に IEF が設立され、2007 年 12 月に定款が州知事により承認された。

(2) アウトプット2

- 1) 各ターゲット・サイト(マラカ地区、マザゴン地区)においては、計画通り、農林協会が設立された²。
- 2) 各ターゲット・サイトにおいて、計画通り、林業活動に従事する川岸生産者の 35% 以上が協会員になっている(マラカ地区 93%、マザゴン地区 75%)。
- 3) マラカ地区では森林管理計画案はほぼ完成しているが、外部条件(実施機関外の行政手続き)により、計画通り、2009 年 2 月までに森林管理計画が承認される見込みは低く、プロジェクト終了までに承認される見込みも低い(2009 年 6 月承認予定)。一方、マザゴン地区では、川岸住民の土地利用/占有権の確立プロセスが長引いているために、2008 年の乾季に予定されていた第 2 次森林調査を実施することができなかった。2009 年の乾季はプロジェクト終了後であり、森林管理計画が、計画通り、プロジェクト終了までに作成・承認されることはないだろう。
- 4) マラカ地区においては、計画通り、協会員に対し、森林管理計画実施に必要な技術研修が行われており、森林管理計画が承認されれば、同計画をすみやかに実施する技術能力は整いつつある。しかし、上記のように、プロジェクト終了までに

¹ 特に注記のない限り、2008 年 12 月 1 日現在の実績である。

² ターゲット・サイト内の協会員は、マラカ地区 122 名 71 家族、マザゴン地区 162 名 117 家族。

森林管理計画が承認される見込みは低く、同計画の実施はプロジェクト終了後になると見込まれる。

(3) アウトプット3

- 1) 各ターゲット・サイトにおいては、計画通り、協会に参加する家族の 35%以上がプロジェクトを通してアグロフォレストリー活動に参加している（マラカ地区 51%、マザゴン地区 47%）。
- 2) 両ターゲット・サイトにおいてアグロフォレストリー・システムが実施されている合計面積は、計画以上の 148ha である（計画値は 60ha）。
- 3) これまでの経験をまとめた報告書類の準備は既に始まっており、2009 年 3 月までに作成される見込みである。

(4) アウトプット4

- 1) マラカ地区の農林協会とアマパ州家具組合の情報交換は、これまで計画通り行われており、今後も計画通り行われる見込みである。ただし、木材供給契約に関する具体的協議については、家具組合側は森林管理計画承認を待ちたいとの意向をもっている。両者間の信頼関係は構築されつつあり、森林管理計画の承認が計画通り 2009 年 2 月に完了すれば、木材供給契約も、計画通りプロジェクト終了までに締結されたと思われる。しかし、上記のように、プロジェクト終了までに森林管理計画が承認される見込みは低い。従って、プロジェクト終了までに木材供給契約が締結される可能性は低いと思われる。
- 2) マラカ地区産出の合法材が家具組合に納品されるためには、木材供給契約が締結されている必要がある。しかし、上記のように、プロジェクト終了までに同契約が締結される見込みは低く、納品はプロジェクト終了後になると見込まれる。
- 3) 家具職人を対象とする木工分野の研修は、これまで 5 回行われ、アマパ州家具企業 18 社の職人 27 名が、研修に 1 回以上参加した。評価団が、これまで 2 回以上研修を受講した家具職人 8 名（5 社）中、5 名の技術チェックを行った結果、全員が家具製造に必要なレベルに達していると確認できた。また、プロジェクトの電話調査によれば、受講者の約 85%が習得技術を使って家具を製造・市販をした実績があり、約 82%が、習得技術を利用して製造した家具がコストアップしたと回答している。また、研修に受講生を派遣した企業のほとんど全てが氾濫原の木材を利用した家具製造を行っており、プロジェクト・エリアから産出予定の合法材に関心があると回答している。当指標には計画値が存在しないため、正確な達成レベルをはかることは困難だが、総合的にみると、これまでの研修受講者の技術力は、おおむね、新しく導入された技術による、合法化されコストアップした木材の製造に必要なレベルに達したと判断される。

4.1.3 プロジェクト目標の実績

アウトプットの実績で記したように、外部条件の影響で、プロジェクト終了までに第1の森林管理計画（マラカ地区）が承認される見込みは低いので、プロジェクト終了までに合法伐採が始まる見込みも低いと思われる。同様に、プロジェクト終了までに、マラカ地区から、家具用に規格化され、販売される合法材が産出される可能性も低いと思われる。一方、両ターゲット・サイトにおいて、プロジェクトによって導入または技術改善されたアグロフォレストリー生産物の量は、計画以上の 1,120 トンに達している（計画値は 500 トン）。

4.1.4 上位目標の実績(予測)

プロジェクト終了 3 年後以降にプロジェクト・エリアの氾濫原において、マラカ地区・マザゴン地区の農林協会によって、森林管理計画が継続的に実施されている見込みはあると予測される。また、プロジェクト終了から 5 年までの間に、プロジェクト・エリアにおいて、プロジェクトの支援で導入または技術改善されたアグロフォレストリー生産物の生産量が最低 700 トンに達する可能性は充分にあると予測される。

4.2 実施プロセスの検証(詳細は別添 4 参照)

ほとんどの活動はほぼ計画通りに進捗しており、プロジェクト終了までに完了することが見込まれる。しかし、アウトプット 2 の実績で記したように、森林管理計画作成・実施に係る活動は、外部条件により、計画より遅れている。両ターゲット・サイトにおいて、森林管理計画作成・承認及びその実施に係る活動が、プロジェクト終了までに完了する可能性は低い。また、森林管理計画承認を必要条件とするマラカ地区農林協会とアマパ州家具組合の木材供給契約締結・履行支援に係る活動もプロジェクト終了までに完了する見込みが低い。ただし、農林協会は森林管理計画作成・実施及び木材供給契約締結に意欲を示しており、家具組合も、木材供給契約によるマラカ地区産出の合法材入手に高い期待を抱いている。また、実施機関はプロジェクト終了後の活動の継続・発展をコミットしており、C/P の技術力も着実に強化されている。以上から、残された活動は、ブラジル側の努力により、プロジェクト後に完了することが期待される。

一方、プロジェクト目標及び上位目標はブラジル政府及びアマパ州政府の多年度計画と整合性あり、州・連邦政府合計 15 機関から成る実施機関・協力機関が共通の目的をもって連携することができた。本プロジェクトでは、森林資源の産地から消費地をつなぐアプローチをとっているが、これはアマパ州政府が地場産業振興において重視しているアプローチ(「生態連鎖」)と合致している。このことが、目標達成上、様々な障壁を、多数の機関が協力して克服しようとする努力につながっている。

また、中間評価以降、PDM は、プロジェクトの進捗にあわせて適宜修正されてきた。このことは、プロジェクト関係者がプロジェクトの達成度について共通の理解をもつことを促進した。

5 評価 5 項目による評価(詳細は別添 5 参照)

5.1 妥当性

プロジェクトの上位目標は現在でもブラジル国、アマパ州及びターゲット・グループ(川岸住民)のニーズと合致している。また、上位目標・プロジェクト目標はブラジル国の開発政策、アマパ州の多年度計画、及び日本の援助政策との整合性もある。また、C/P、受益者及び関係機関へのインタビューにより、日本の技術優位性も確認された。総合的に勘案すると、プロジェクトは現在でも妥当であると考えられる。

5.2 有効性

プロジェクト目標は達成されつつあるが、外部条件によるアウトプット 2 の達成度の遅れ(森林管理計画作成・実施の遅れ)、及びそれに伴うアウトプット 4 の達成度の遅れ(木材供給契約の締結・履行の遅れ)の影響を受けるため、プロジェクト終了時の達成度は限定的であり、プロジェクト終了後に目標を達すると見込まれる。一方、プロジェクト

目標の達成は各アウトプットの達成によりもたらされており、計画通りアウトプットが達成されていれば、プロジェクト目標はプロジェクト終了までに達成されていたと見られる。総合的に勘案すると、プロジェクトの有効性は、外部条件に影響され、中程度であるといえる。

5.3 効率性

ブラジル側日本側双方の投入は、タイミング、質、量の面で、総じて、適切であった。いくつかの課題はあったが、そのほとんどは双方の協力によって解決された、あるいはされつつあり、投入はアウトプット産出に充分貢献したと判断される。この結果、アウトプットの実績で記したように、アウトプット 1 及びアウトプット 3 は十分に産出される見込みだが、アウトプット 2 及びアウトプット 4 は外部条件の影響があり、プロジェクト期間中に十分に達成される見込みは低いと判断される。総合的に勘案すると、プロジェクトの効率性は、外部条件の影響を受け、中程度であるといえる。

5.4 インパクト

上位目標レベルのインパクト: プロジェクト終了から 3~5 年後に上位目標が達成される見込みは充分にあると思われる。

その他のインパクト: 既に様々な正のインパクトが確認されている。たとえば、プロジェクトの存在は、ターゲット・サイトにおいて川岸住民の土地利用権に関する問題の解決プロセスを促進してきた。特に、マザゴン地区においては、INCRA の入植地設立手続きが進行中である。また、川岸住民の森林資源の持続的利用に関する意識を向上させた。アグロフォレストリー及び木工研修分野の C/P は、プロジェクトを通して習得した技術・知識を、彼らの通常業務においても活用・普及している。多くの機関の連携の下でプロジェクトを実施することによって、アマパ州行政組織のコミュニケーションが促進された。一方、将来的な負のインパクトは現時点では確認されておらず、予測もされない。

5.5 自立発展性の見通し

制度的・組織的側面: 森林資源の持続的な利用のための法的・政策的支援は今後も継続されるとみられる。プロジェクトで推進してきた持続的森林管理、アグロフォレストリー、及び農林協会と家具組合の連携は、実施機関の本来業務でもあり、関連活動継続は組織戦略と合致している。また、現在策定中のアマパ州氾濫原の森林資源の持続的利用に係る基本方針は、今後の活動の継続・発展の指針となることが期待される。これまでのところ、実施機関はプロジェクトの活動を深刻な問題なく運営しており、プロジェクト終了後の関連活動の運営についても、特に支障はないと思われる。ほとんどの C/P は州あるいは連邦の正規職員であり、雇用は保証されていること、専門性が高いことから、引き続き関連活動に従事するものと思われる。一部の C/P は契約職員であり、彼らが所属機関に定着するかどうかは判断できない。以上を勘案すると、組織・制度面の自立的発展性はおおむねあると思われる。

財政的側面: これまでのところ、実施機関はプロジェクト活動に必要な予算を確保してきた。実施機関の責任者である IEF 所長、RURAP 所長、SEICOM 局長はプロジェクト終了後も、関連活動のための予算を確保すると表明しており、財政的自立発展性は確保されると見込まれる。

技術的側面: 全体的に、C/P の技術能力は着実に強化されており、プロジェクト終了までに、森林管理、アグロフォレストリー、及び木工分野の C/P は関連活動を継続するために必要な能力が十分に備わる見込みである。また、実施機関及び C/P を配置している SENAI は、プロジェクト終了後も、通常業務において、移転された技術やプロジェクトの成果品を活用・普及すると見込まれる。一方、移転された技術は現地のニーズ及びレベルに適合しており、ターゲット・グループである農林協会メンバーも、実施機関その他の関連機関の継続的な支援の下、移転された技術・知識を活用・向上させることが期待される。また、日本側が調達した機材はプロジェクト終了後も十分に活用されることが見込まれる。ただし、機材の供与先をなるべく早く決定し、プロジェクト終了までに保守管理体制を確立することが望まれる。総合的にみて、技術的自立発展性はあると判断される。

6. 結論

本プロジェクトを通じて、アマパ州として氾濫原森林資源の持続的利用基本方針が作成され、これを担当する IEF が設置された。川岸生産者は農林協会を立ち上げアグロフォレストリー生産も目標を上回っており、家具職人の技術力も向上している。プロジェクト目標を達成するには至っていないが、それは主に外部要因によるところが大きい。ブラジル関係機関の手続きによって森林管理計画が承認されれば、プロジェクト終了後、アマパ州家具組合との木材供給契約が結ばれ、合法材が搬出され、合法材による家具も作成されるだろう。

今後は、ブラジル関係機関の手続きによる進捗と、森林管理計画の承認、木材供給契約の締結がスムーズに進むように促進する必要があり、これはブラジル側で行え得るものである。従い、プロジェクトは予定通り終了することとする。

7. 提言および教訓

7-1 提言

7-1-1 短期的提言

- (1) プロジェクト終了後に合同調整委員会(半年に 1 回開催)、運営委員会(毎月開催)に代わる定期的な関係機関間の協議・情報共有の場を設置する必要があり、プロジェクト(IEF・SEICOM・RURAP を含む)は、そのための準備をアマパ州経済開発特別局(SEDE)、アマパ州農村開発局(SDR)と調整しながら進めるべきである。
- (2) プロジェクト(IEF・SEICOM・RURAP を含む)は、森林管理計画の作成・承認にいたるスケジュールを関係者に共有し、各機関が行うべき内容とタイミングを明らかにすることが必要である。さらに受益者である農林協会や協力者である家具組合に適宜説明し、信頼関係の構築、スムーズな進捗を促すことが重要である。
- (3) 農林協会と家具組合との木材供給契約のためには、共同出荷・販売・出荷のルール作りが必要であり、森林管理計画承認後速やかに契約交渉を進めるためにも、プロジェクト(IEF・SEICOM・RURAP を含む)は、農林協会と家具組合の意見交換の場を設け、事前の準備を進めることが必要である。

- (4) プロジェクト(IEF・SEICOM・RURAP を含む)は、プロジェクト終了後に継続的に活用するため、供与機材の譲渡先機関を決定する。その後、各機関はブラジルの法律に基づいて物品管理簿に登録し、維持・管理する必要がある。また、現在カサ・デ・ホスピタリタージに設置しているスライド丸鋸および卓上丸鋸を、2009 年 3-4 月に研修を行うアマパ州家具産業開発支援センター(CADIMA)へ速やかに移動する必要がある。
- (5) プロジェクトは全国工業職業訓練機関(SENAI)とともに、今後第 6, 7 回の木工研修を共同計画・実施する。その際、受講者の技術向上を把握するための事後評価を行い、プロジェクト終了後の研修にも役立てることとする。あわせて研修テキストを作成することとする。
- (6) 農林協会の組織化・強化は、住民をターゲットとしたプロジェクトには重要な要素であることから、RURAP は、当該分野において人員育成・増加が必要である。
- (7) 農林協会は、アグロフォレストリーで植え付けられた樹木(在来種)を将来伐採する上で許可を得るために、植え付け面積、樹種別の数量及び場所を届け出る、あるいは、報告を SEMA、IMAP 及び IBAMA に行うことが望ましい。なぜなら、伐採許可および、特に、運搬に必要なからである。これは森林環境法律が将来的に変更される可能性があり、特に、ブラジルが加盟している国際議定にも含む、追加される絶滅危機リストにアップされた場合を担保するためである。
- (8) 誓約者としての INCRA、IBAMA、SEMA 及び IMAP と、被誓約者としての連邦検察局及びアマパ州検察庁の間で、2007 年 12 月 3 日に締結された行動調整協定書(TAC)、さらに 2007 年 12 月 5 日付の 3 年間有効の追加文書を考慮し、次のように提言する。マラカ地区の農林協会が、IEF を通してアマパ州政府と共に、SEMA・IMAP に対し、森林伐採の許可発行プロセスの手続きを速めるために TAC を利用すること。なお、このプロセスは、マラカ採集入植地計画(PAE)の環境許可の必要性及び継続性を無くすものではない。
- (9) SEMA/IMAP は、国家環境審議会(CONAMA)を諮問・審議組織とする国家環境制度(SISNAMA)を構成する地域機関であることから、アウトプット1の基本方針を IBAMA の生物多様性及び森林の持続的活用部(DBFLO)に事前に検討を依頼することを提案する。これはブラジルの環境省が氾濫源における森林管理にかかる訓令を作成する予定であり、本基本方針はこの訓令のたたき台になり得、DBFLO による検討はアマパ州政府と連邦政府ともに有益だからである。
- (10) マラカ及びマザゴン地区の住民とのインタビューにおいて、1ha 当たりの 10m³の伐採量の経済的フィージビリティについて、意見が分かれた。従って、評価団は、IEF による直接的なフォローが行われ、その伐採量が実質的にコミュニティの現状に適切であるか、それとも、より適切な形で氾濫原における森林管理を行える他の技術的なパラメーターを定める必要があるかを検証することを提言する。

7-1-2 長期的提言

- (1) アマパ州の森林資源の持続的利用については、新設された IEF の役割が重要であり、その体制の強化(施設、機材、情報システム、職員増等)、職員の能力向上をさらに推進すべきである。特に、農林協会の組織化・強化にかかる職員を配置することが望ましい。
- (2) 農林協会は IEF の支援を受け、雨季・乾季にあわせ、進行スケジュールを計画


的に進める必要がある。特にマザゴン地区における森林管理計画作成に必要な森林調査は、2009年の乾季に行われる必要がある。

- (3) プロジェクト・サイトを含む農村地域での農業技術指導は、RURAPが大きな役割を担っている。IEFおよびRURAPは、本プロジェクトの成果の順調かつ着実な進捗のためにも森林政策と農村開発政策を統合する必要がある、両者の上位機関である農村開発局(SDR)の役割が重要である。
- (4) 農林協会および家具組合はSEICOMの支援を受け、積極的に意見交換の場を設け、木材供給契約が速やかに締結されるよう準備を進めるべきである。
- (5) SDR(IEFおよびRURAPを含む)とSEICOMの活動を統合的に推進するためには、その上位機関であるSEDEの役割が重要である。SEDEは、本プロジェクトの成果が継続できるように関係機関の調整を行うとともに、本プロジェクトの成果が州内他地区に展開されるように知事・議会に積極的に働きかける必要がある。
- (6) JICAがパラ州で行っている第三国研修「アグロフォレストリーコース」は本件を推進する上で有効であり、アマパ州は積極的に職員を参加させることが望まれ、JICAもアマパ州からの参加を配慮することとする。

7-2 教訓

- (1) 本件の場合、プロジェクト目標を達成するために複数の外部条件を満たすことが不可欠であった。目標およびその指標を設定する際には、プロジェクトのコントロールの範囲の中で達成できるように十分な検討が必要である。
- (2) 土地問題は法律や州令が複雑であり、関係機関も多岐にわたる。プロジェクトをデザインするに当たっては土地問題が影響するかを確認することが重要である。土地問題にかかる活動をプロジェクトに含む場合は、事前に、州および国の法律・政策・制度の見通し等について十分な確認・検討が必要である。
- (3) 多機関にわたる調整が必要なプロジェクトにおいては、州や国の方針と合致していることが重要であり、その方針の下で一層の効果がもたらされる。
- (4) 活動の進捗に合わせて適宜PDMを修正することによって、実態に合ったPDMになり、また、プロジェクト関係者がプロジェクト全体の達成度などについて共通の理解を得ることができる。
- (5) 住民を対象とした協会組織作成・強化を推進するには、社会経済状況を踏まえた意識向上活動もプロジェクトに含む必要がある。
- (6) 当初半年間の準備期間を設けたことは、多岐にわたる関係機関、複雑なプロジェクト活動を整理・検討するには妥当であった。一方で、日本側の投入として、主たる活動分野の専門家を当初より効果的に投入するべきであった。また複数の機関が実施機関・協力機関となる場合は、業務調整に多大な時間を費やすことが予想される。その場合、専門家と業務調整員を兼務しないことが望ましい。

以上



別添及び資料リスト

- 別添1 PDMe(PDM4に基づく)
- 別添2 最新 PO(P04)
- 別添3 プロジェクトの実績
- 別添4 プロジェクトの実施プロセス
- 別添5 評価 5 項目による評価

資料 A ブラジル側の投入実績

- A-1 人員配置の実績
- A-2 予算措置の実績

資料 B 日本側の投入実績

- B-1 専門家派遣の実績
- B-2 研修員受け入れの実績
- B-3 機材供与の実績
- B-4 在外事業強化費の実績

資料 C 森林管理計画作成～合法材納品の予測スケジュール

- C-1 マラカ地区
- C-2 マザゴン地区

資料 D 活動実績表

資料 E プロジェクトの実施体制図

資料 F 略語表



別添 1 評価用 PDM (2008.9 承認の PDM4 に基づく)

下欄部：PDM4 への追加箇所

プロジェクト名：アマパ州氾濫原地域における森林資源の持続的利用計画

協力期間：3.5 年 (2005 年 11 月 2 日から 2009 年 5 月 1 日)

受益国における実施機関：IEF, RURAP, SEICOM

協力機関：SEDE, SDR, SETEC, IEPA, SEMA, SEBRAE, SENAI, IBAMA, EMBRAPA, INCRA, GRPU, マザゴン郡庁

プロジェクト・エリア：アマパ州マザゴン郡マザゴン・ペーリョ及びマラカカの氾濫原地帯

対象グループ：氾濫原に居住する川岸住民

プロジェクトの要約	指標	指標入手手段	外部条件
<p>上位目標 アマパ州氾濫原プロジェクト・エリアの森林資源が持続的に活用され、川岸住民の生計が改善される。</p>	<p>アマパ州におけるプロジェクト・エリアの氾濫原において、森林管理計画が協会により継続的に実施される。 プロジェクト・エリアでプロジェクトの支援で導入または技術改善されたアグロフォレストリー生産物 (*1)の生産量がプロジェクト終了後5年目までに最低700トンまで増加する (5年間で700トン)。</p>	<p>1. IEF による調査 2. RURAP による調査 3. SEICOM による調査</p>	<p>- 州政府関係機関に大幅な追加改編が行われない。 - 気象現象への前規移住者の数が急増しない。</p>
<p>プロジェクト目標 アマパ州氾濫原のプロジェクト・エリアにおいて、川岸住民の生計向上に資する森林資源の活用方法が改善される。</p>	<p>プロジェクト開始時に比べ、プロジェクト終了時には： 1. ターゲット・サイト (マラカ地区) において、承認された森林管理計画に従い、合法的に伐採された木材の量が、200 m³(*2)になる。 2. 両ターゲット・サイト (マラカ地区、マザガウン地区) において、プロジェクトの支援で導入または技術改善されたアグロフォレストリー生産物の量が、500 トンまで増加する。 3. ターゲット・サイト (マラカ地区) において、生産され、家具用に規格化・販売される合法木材の量が、50 m³(*2)に増加する。</p>	<p>1.1 策定された基本方針の分析。 1.2. プロジェクト報告書の調査。</p>	<p>川岸住民の収入に影響を与えるような急激な地産経済の変動が起こらない。</p>
<p>アウトプット 1. アマパ州政府に、プロジェクト・エリア内の氾濫原における森林資源の持続的活用のための技術的枠組が構築される。 2. 川岸住民により持続的森林管理が実践される。</p>	<p>1-1. 氾濫原における森林資源の持続的利用のための基本方針が2008年11月までに策定される。 1-2. 州政府内に氾濫原の森林資源の持続的利用を担当する機関が設置される (活動1.3 関連)。 2-1. 各ターゲット・サイトにおいて、農林協会が立ち上がる。 2-2. 各ターゲット・サイトにおいて、プロジェクト終了までに、林業活動に携わる川岸生産者の35%以上が、協会のメンバーになる。 2-3. 各協会の森林管理計画が承認される (計2つの森林管理計画 (マラカ地区) は、2009年2月末までに、第2の管理計画 (マザガウン地区) は、プロジェクト終了時点で承認される。 2-4. 承認された第1の森林管理計画は、プロジェクト終了までに、当該協会のメンバーにより、当該ターゲット・サイトの計144 haで実践される。</p>	<p>2.1-2.4 IEF による調査。</p>	
<p>3. 川岸住民により、アグロフォレストリー・システムが導入される。</p>	<p>3-1. 各ターゲット・サイトにおいて、プロジェクト終了までに、川岸生産者 (但し、3.1 では農林協会に登録したプロジェクト・エリアに居住する川岸住民を「川岸生産者」とする) の35%以上がアグロフォレストリーの計画作成に参加する。 3-2. プロジェクト終了までに、両ターゲット・サイトの計60haにおいて、協会のメンバーによってアグロフォレストリーが実施される。 3-3. プロジェクト終了までに、プロジェクトの経験に関する報告書が作成される。</p>	<p>3-1-3.3 RURAP による情報提供。</p>	
<p>4. 川岸住民と家具産業の連携体制が構築され、強化される。</p>	<p>4-1. プロジェクト終了までに、一つの農林協会と家具組合との間に一つの木材供給契約が締結される。 4-2. プロジェクト終了までに、木材供給契約に従い、1箇所のターゲット・サイトから合法的に生産された木材が、家具組合に納品される。 4-3. プロジェクト終了までに、7回の研修を通じて、木材の利用に関する家具職人の技術力が向上される (但し、「技術力が向上される」は「新しく導入された技術による、合法化されたコストアップした氾濫原の木材を利用した家具の製造に必要なレベルに達すること」を意味する)。</p>	<p>4.1 & 4.2. SEICOM による調査。 4.3 遊覧記録レジャー 導入された技術に関する調査員は必ずしも調査員は必ずしも</p>	

別添1 評価用 PDM (2008.9 承認の PDM4 に基づく)

下巻部：PDM4 への追加箇所

<p>活動 [準備期間:6ヶ月] 0-1. ターゲット・サイト候補地の現状 (自然条件・社会条件など) について調査を行う。 0-2. アマパ州政府の氾濫原に対する施策の現状を整理・把握する。 0-3. 氾濫原から生産されている農産物の市場・流通の現状を調査する。 0-4. ブラジル国内の家具製品市場について調査を行う。 0-5. 調査の結果に基づき、PDM (案) と PO (案) を見直し、具体的な指標を設定する。 [本格実施：3年間] 1-1. 川岸住民の意見を踏まえた氾濫原における森林資源の持続的利用のための基本方針を作成する。 1-2. 州政府は、作成された基本方針を、広く周知する。 1-3. 氾濫原における森林資源の持続的利用を担当する組織を州政府内に整備する。 1-4. 川岸住民と関係機関の間で氾濫原の森林資源の持続的利用に関する定期的な会議を実施する。 2-1. 各ターゲットサイトにおいて、川岸住民によるアグロフォレストリー・システムを活動として含む農林協会を立ち上げる。 2-2. 農林協会の経営能力強化を図るため、関連協会のメンバーに対し、研修を実施する。 2-3. 森林管理計画の作成について各協会を支援する。 2-4. 各協会のメンバーに対し、森林管理計画の実施を支援する。 3-1. 各地域の状況に適したアグロフォレストリーの実施計画を作成するための会議の準備において、各協会を支援する。 3-2. 川岸住民 (協会員) に対し、作成された計画に従ったアグロフォレストリー・システムの実践を支援する。 3-3. アグロフォレストリー・システムの技術的な評価を支援する。(*3) 3-4. 各協会のメンバーに対し、アグロフォレストリー生産物の集荷、輸送及び有利販売の促進を支援する。 4-1. 農林協会と家具業界 (SINDIMOVEIS/UNIMOVEIS/CADIMA) との間で、連携体制が構築、強化されるためのアイデア/意見交換を目的とする会議を定期的に開催する。 4-2. 農林協会に対し、アマパ州家具組合 (UNIMOVEIS) との合法木材供給契約の署名及び履行を支援する。 4-3. 農林協会との連携を強化し、合材材の安定した市場を確保するため、持続的開発のための家具業界の企業力を高める。</p>	<p>投入： <日本側> (1) 長期専門家 (2名) : チーフアドバイザー/森林政策・管理技術、木材加工/プロジェクト・コーディネーター (2) 短期専門家 (ローカル人材も含む) : アグロフォレストリー、マーケティング、環境教育、農村社会調査他 (3) 供与機材 : 車両、移動用ボート、木材加工機材、事務関連資機材他 (4) 研修員受入 : 森林政策・管理技術、木材加工等、必要に応じて年間 2~3 名程 (5) 在外事業強化費 ＜ブラジル側＞ (1) カウンターパート : プロジェクトディレクター、プロジェクトマネージャー、州関係機関スタッフ他 (2) 施設、土地の提供 : プロジェクト事務所、試験圃場等 (3) その他 : 現地出費の支払い他</p>	<p>プロジェクトエリアにおいて深刻な自然災害や気候変動が起こらない。 土地の使用権に關する問題の最終的な解決は、大幅に遅れない。</p> <p>前提条件：</p>
--	---	---

*1 アグロフォレストリー生産物とは、農産物及び非木材林産物を指す。

*2 実施されたインベントリー調査に基づいた推定量。

*3 アグロフォレストリーシステムの技術的な評価：プロジェクト・エリアにおいて川岸住民により設立された組織を指す (AAFLOMARA, と AAFLOMAZA)。

※協会 という単語は、プロジェクト・エリアにおいてアマパ州農林院、SECOM : アマパ州農工商工鉱局、SEDE : アマパ州経済開発特別局、SETEC : アマパ州科学技術局、IEPA : アマパ州森林院、RIJRAP : アマパ州農林院、SEBRAE : ブラジル農林・小企業支援サービス、SENAI : 全国工業職業訓練機関、IBAMA : ブラジル環境再生可能資源院、EMBRAPA : ブラジル農牧研究公社、INCRRA : 植民地改革院、GRPU : 国家資源管理事務所 (企業資源管理国家資産局の地方支所)、SINDIMOVEIS : アマパ州家具企業連合、UNIMOVEIS : アマパ州家具組合、CADIMA : アマパ州家具産業開発支援センター

別添 2 最新 PO(PO4)

No. Atividades	Cronograma (baseado nas datas descritas nas colunas à esquerda)																	Pessoas Responsáveis conforme PO 4.1.1	
	5					AC2006					AC2007					AC2008			AC2009
	AFJ05		AFJ2006			AFJ2007			AFJ2008		09								
	Nov-Dez	Jan-Mar	Apr-Jun	Jul-Set	Out-Dez	Jan-Mar	Apr-Jun	Jul-Set	Out-Dez	Jan-Mar	Apr-Jun	Jul-Set	Out-Dez	Jan-Mar	Apr-Jun				
Resultado 1	Uma estrutura técnica de uso sustentável de recursos florestais das várzeas na Área do Projeto será estabelecida dentro do Governo do Estado do Amapá. アマパ州政府に、プロジェクト・エリア内の氾濫原における森林資源の持続的活用のための技術的枠組が構築される。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
1-1	Elaborar uma Diretriz Básica para o uso sustentável de recursos florestais na várzea, levando em consideração a opinião dos ribeirinhos. 川岸住民の意見を踏まえた氾濫原における森林資源の持続的利用のための基本方針を作成する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
a	Criar uma comissão formada pelos representantes do Governo do Estado, Governo Federal, ONGs, prefeituras e representantes das comunidades ribeirinhas para elaborar a Diretriz Básica. 州政府、連邦政府、NGO、市役所、川岸住民代表者による基本方針作成委員会を設立する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
a/1	Instalar uma comissão para elaboração da Diretriz Básica. 基本方針作成のための検討委員会を設立する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
a/2	Realizar reuniões e seminário para nivelar informações sobre recursos florestais em áreas de várzea. 氾濫原の森林資源に関する情報共有のための会議及びセミナーを開催する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
b	A Comissão realizará seminários nas comunidades ribeirinhas. 検討委員会は川岸住民のコミュニティでセミナーを開催する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
b/1	Seminário em Foz do Rio Maracá. マラカ地区でセミナーを開催する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
b/2	Seminário em Foz do Rio Mazagão. マザガウン・ペーリョ地区にてセミナーを開催する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
c	A Comissão elaborará a diretriz básica com base nas discussões em oficina, reuniões. 検討委員会はワークショップ、会議における議論に基づき、基本方針を作成する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
c/1	Reuniões para elaboração da Diretriz Básica. 基本方針を作成するための会議を開催する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
c/2	Oficina de elaboração da Diretriz Básica. 基本方針を作成するためのワークショップを開催する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
c/3	Reunião de definição da Diretriz Básica. 基本方針を決めるための会議を開催する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
1-2	O Governo do Estado do Amapá divulgará amplamente, através dos meios, a Diretriz Básica elaborada. 州政府は、作成された基本方針を、広く周知する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
a	Elaborar sitio WEB do Projeto. プロジェクトのホームページを作成する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
b	Elaborar a guia sobre Diretriz Básica e distribuir através do sitio WEB. 基本方針に関するガイドを作成し、プロジェクトのホームページを通じて広める。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
c	Elaborar a guia sobre Diretriz Básica e distribuir através da imprensa. 基本方針に関するガイドを作成し、印刷物として配布する。																	Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	
1-3	Estabelecer um órgão responsável dentro do Governo do Estado do Amapá que cuide do uso sustentável de recursos florestais da várzea. 氾濫原における森林資源の持続的利用を担当する組織を州政府内に整備する。																	João Cunha Mourão (IEF)	
a	Estabelecer um órgão responsável dentro do Governo do Estado do Amapá que cuide do uso sustentável de recursos florestais da várzea. 氾濫原における森林資源の持続的利用を担当する組織体制を州政府機関内に整備する。																	Alandy Patricia do Socorro Cavalcante Simas (SEDE)	
a/1	A SEDE convocará reunião para indicar e apresentar o órgão responsável pela execução. 組織体制整備検討会議を、SEDEが中心となり、開催する。																	Alandy Patricia do Socorro Cavalcante Simas (SEDE)	
a/2	Estabelecer dentro da gerencia de florestas da SEAF uma equipe técnica para trabalhar com recursos da várzea. SEAF森林部の中に、氾濫原の資源を扱うためのチームを結成する。																	Alandy Patricia do Socorro Cavalcante Simas (SEDE)	
b	Formar uma equipe local executora do projeto composta por 4 pessoas (1 coordenador e 3 técnicos) para dar suporte técnico na área do projeto. プロジェクトサイトを現地指導する、4人編成の(リーダー1名+技術者3名)の「作業チーム」を設置する。																	Alandy Patricia do Socorro Cavalcante Simas (SEDE)	
b/1	Realizar reunião para indicar o órgão responsável e definir a equipe de trabalho. 責任機関を定めるための会議を開催し、作業チームの人選を行う。																	Alandy Patricia do Socorro Cavalcante (SEDE)	
b/2	SEAF unificará a equipe com o estabelecimento de escritório na sua sede em Macapá como órgão responsável. 作業チームの事務所を、マカパSEAF内へ設置しSEAFが統括する。																	João da Cunha (IEF)	

別添 2 最新 PO(PO4)

1-4	Realizar reuniões periódicas entre as instituições envolvidas e os ribeirinhos sobre o uso sustentável dos recursos florestais da várzea. 川岸住民と関係機関の間で氾濫原の森林資源の持続的利用に関する定期的な会議を実施する																			Arandy Patricia do Socorro Cavalcante (SEDE)
a	Realizar reuniões do Comitê de Gestão da Várzea no Município de Mazagão sempre que se fizer necessário. マザガウン郡において、氾濫原運営委員会の会議を必要に応じて開催する。																			Arandy Patricia do Socorro Cavalcante (SEDE)
b	Realizar reuniões para troca de idéias, a cada trimestre ou sempre que se fizer necessário na área do projeto. プロジェクトサイトにおいて、意見交換を四半期ごと又は必要に応じて開催する。																			Arandy Patricia do Socorro Cavalcante (SEDE)
Resul- tado 2	Manejo sustentável da floresta será conduzido pelos ribeirinhos. 川岸住民により持続的森林管理が実践される																			Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)
2-1	Instalar uma associação agro-florestal em cada Área-Objeto do Projeto, cujas atividades incluam sistemas agro-florestais pelos ribeirinhos. 各ターゲットサイトにおいて、川岸住民によるアグロフォレストリーシステムを活動として含む農林協会を立ち上げる																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
a	A equipe de execução do projeto realizará, nas comunidades ribeirinhas, seminário sobre Associativismo. プロジェクト作業チームが、コミュニティ単位で協会設立のためのセミナーを開く。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
a/1	I Seminário de Mobilização da Micro-Região da Foz Mz. Velho para criação da Associação. Carga horária 8h. マザガウン河口で第1回、協会設立セミナーを8時間行なう。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
a/2	I Seminário de Mobilização da Micro-Região da Foz do Maracá para criação da Associação. Carga horária 8h. マラカ河口で第1回、協会設立セミナーを8時間行なう。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
a/3	II Seminário de Mobilização para Formação da Comissão Organizadora da Futura Associação da Micro-Região da Foz Mz. Velho. Carga horária 8h. マザガウン河口で第二回、協会設立セミナーと協会設立のための実行委員会設立セミナーを8時間行なう。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
a/4	II Seminário de Mobilização para Formação da Comissão Organizadora da Futura Associação da Micro-Região da Foz do Maracá. Carga horária 8h. マラカ河口で第二回、協会設立セミナーと協会設立のための実行委員会設立セミナーを8時間行なう。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b	Formação das Associações Agro-Florestais. 農林協会を立ち上げる。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b/1	Montar com Todos os Participantes a Comissão Organizadora da Futura Associação na Micro-Região da Foz do Maz. Velho. マザガウン・ペーリョで、住民参加者全員で総会を行い組織委員会を設立する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b/2	Montar com Todos os Participantes a Comissão Organizadora da Futura Associação na Micro-Região da Foz do Maracá. マラカで、住民参加者全員で総会を行い組織委員会を設立する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b/3	Após Formada a Comissão Organizadora, a mesma Trabalhará junto com a Orientação do RURAP a Elaboração do Estatuto e Outras Peças-Chave desse Processo de Constituição. Na Micro-Região da Foz do Mz Velho. マザガウン・ペーリョの組織委員会は、RURAPの指導のもと、定款作成を行い、その他助言する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b/4	Após Formada a Comissão Organizadora, a mesma Trabalhará junto com a Orientação do RURAP a Elaboração do Estatuto e Outras Peças-Chave desse Processo de Constituição. Na Micro-Região da Foz do Maracá. マラカの組織委員会は、RURAPの指導のもと、定款作成を行い、その他助言する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b/5	Assembléia de Constituição na área do Mazagão Velho, que tratará a seguinte palta: a) Apreciação do Estatuto. B) Eleição e Posse da Dijretoria e Conselho Fiscal. マザガウン・ペーリョの組織委員会は、A)定款、B)選挙及び役員選出について検討する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b/6	Assembléia de Constituição na área do Maracá, que tratará a seguinte palta: a) Apreciação do Estatuto. B) Eleição e Posse da Dijretoria e Conselho Fiscal. マラカの組織委員会は、A)定款、B)選挙及び役員選出について検討する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b/7	Estabelecer a Associação Agro-florestal em Mazagão Velho, encaminhando as documentações para o órgão competente do governo para aprovação. 政府商業認可機関へ申請しマザガウン・ペーリョにおける農林協会を設立する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b/8	Estabelecer a Associação Agro-florestal em Maracá, encaminhando as documentações para o órgão competente do governo para aprovação. 政府商業認可機関へ申請しマラカにおける農林協会を設立する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
2-2	Realizar cursos de treinamento aos membros envolvidos para fortalecer a capacidade administrativa das associações. 農林協会の経営能力強化を図るため、関連協会のメンバーに対し、研修を実施する																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
a	Realização de treinamento para o fortalecimento da capacidade administrativa da Associação Agro-Florestal, através da RURAP. RURAPが農林協会の運営能力強化研修を実施する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)
b	Realização de treinamento para o fortalecimento da capacidade administrativa da Associação Agro-Florestal, através da RURAP, em parceria com consultores externos. RURAPが外部コンサルタントと連携し、農林協会の運営能力を強化するための研修を実施する。																			Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)

別添 2 最新 PO(PO4)

2-3	<p>Prestar assistência a cada associação na elaboração de seus planos de manejo florestal. 森林管理計画の作成について各協会を支援する</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
a	<p>Planejar e executar o primeiro inventário florestal e elaborar o Plano de Manejo Florestal Sustentável. 第1回森林インベントリー調査を計画、実施し、持続可能な森林管理計画(PMFS)を作成する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
a/1	<p>Planejar o primeiro inventário florestal. 第1回森林インベントリー調査を計画する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
a/2	<p>Executar o primeiro inventário florestal. 第1回森林インベントリー調査を実施する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
a/3	<p>Elaborar o primeiro Plano de Manejo Florestal Sustentável baseado de resultado do inventário. インベントリー調査の結果を踏まえ、最初の持続可能な森林管理計画(PMFS)を作成する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
b	<p>Planejar e executar o segundo inventário florestal e elaborar os planos. 第2回森林インベントリー調査を計画、実施し、各種計画を作成する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
b/1	<p>Planejar o segundo inventário florestal. 第2回森林インベントリー調査を計画する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
b/2	<p>Executar o segundo inventário florestal. 第2回森林インベントリー調査を実施する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
b/3	<p>Elaborar os Planos. 各種計画を作成する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
c	<p>Discutir e planejar com o SINDIMOVEIS/CADIMA sobre sua demanda de madeira, definindo a quantidade por espécie. 木材の種類と量を含む需要についてSINDIMOVEIS/CADIMAと議論し、計画する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
d	<p>Obter as Autorizações de Exploração, de uso alternativo e limpeza de açzais nativos (AUTEX) junto à SEMA. 伐採、土地利用転換、アサイー林管理のための許可(AUTEX)をSEMAから取得する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
2-4	<p>Prestar assistência aos membros da associação na execução do seu plano de manejo florestal. 各協会のメンバーに対し、森林管理計画の実施を支援する</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
a	<p>Elaborar e executar o esquema de capacitação e conteúdo, baseado no plano de manejo. 管理計画に基づき、研修の構成と内容を計画し実施する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
a/1	<p>Realizar capacitação de manuseio e operação de motosserra, tendo como objetivo a derrubada de árvores e produção de toras com o menor impacto possível nas florestas. 森林環境に負荷の少ない、樹木の伐採と丸太生産を目的としたチェーンソー使用方法の研修を実施する。</p>																		Madson Aran Rocha de Souza (SETEC)
a/2	<p>Realizar pesquisas para a melhoria na técnica de produção de serraria, levando-se em consideração o menor impacto possível ao meio-ambiente. 環境への低インパクトを考慮した製材技術の改善のための調査を実施する。</p>																		Ailson Picanco Corrêa (SENAI)
a/3	<p>Realizar pesquisa para identificação de espécie conhecida como Pracuúba (Mora spp.). 俗名ブラクウーバに関する種類同定の調査を実施する。</p>																		Madson Aran Rocha de Souza (SETEC)
a/4	<p>Realizar pesquisa sobre determinação da aptidão tecnológica da madeira espécie conhecida como Pracuúba (Mora spp.). 俗名ブラクウーバの木材の適合性に関する調査を実施する。</p>																		Madson Aran Rocha de Souza (SETEC)
a/5	<p>Realizar seminários e/ou cursos de capacitação sobre PMFS (Maracá e Mazação Velho). PMFSに関するセミナー及び/又は研修コースを実施する(マラカ及びマザガウンペーリョ)。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
b	<p>Realizar pesquisas sobre equipamentos úteis para execução do PMFS e aproveitamento de resíduos. PMFS実施のための必要機材と端材利用に関する調査を実施する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
b/1	<p>Realizar pesquisa sobre a possibilidade de uso de balsa-guincho no local. 運材機付小型船(通称タルターガ)の利用の可能性について調査する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
b/2	<p>Realizar pesquisa sobre serraria móvel para verificar a sua funcionalidade. 移動製材機について現地適合の調査を実施する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
b/3	<p>Desenvolver pesquisa para o aproveitamento da costaneira. 端材利用のための調査を実施する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
c	<p>Realizar pesquisas sobre técnicas de baixo custo para o transporte e manuseio após o corte. 集運材の低コスト技術に関する調査を実施する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
c/1	<p>Analisar produção por equipe de trabalho tradicional, sobre arraste de toras e peças serradas. 丸太と製材板の牽引について、伝統的な生産方法を分析する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
c/2	<p>Analisar produção por equipe de trabalho tradicional no transporte, com auxílio de flutuadores de toras e peças serradas. 丸太と製材板の浮利用の運搬について、伝統的な生産方法を分析する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)
c/3	<p>Pesquisar sobre equipamentos e animais para arraste de tora e peças serradas. 丸太と製材板の牽引のための機械と動物利用について調査を実施する。</p>																		Mario Roberto Marinho (IEF)

別添 2 最新 PO(PO4)

b	Prestar orientação técnica individual aos ribeirinhos através de visitas periódicas. 定期的には川岸住民を訪問し個別に技術指導を行う。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
b/1	Orientação técnica sobre plantação (1 ou 2 vezes por mês). 植付けの技術指導を行う(月1.2回)。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
b/2	Orientação técnica sobre instalação e manejo dos viveiros / mudas (1 ou 2 vezes por mês). 苗床・苗木の設置と管理に関する技術指導を行う(月1.2回)。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
b/3	Monitoramento das atividades. 活動をモニタリングする。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
c	Prestar orientação aos produtores para facilitar acesso às linhas de crédito. 融資制度へのアクセスを容易にするため生産者を指導する。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
c/1	Concientizar os ribeirinhos sobre vantagem de linhas de crédito. 融資制度のメリットについて川岸住民の理解を促す。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
c/2	Prestar assistência para a autorização de uso da terra pela GRPU/SPU e criação de assentamento pelo INCRA para facilitar acesso a linhas de crédito. 融資制度の利用を可能とする、GRPU/SPUによる土地利用許可及びINCRAによる入植地設立を支援する。																	Guarabichaba M. Ferreira (IEF)
3-3	Prestar assistência na avaliação técnica de sistemas agro-florestais. アグロフォレストリシステムの技術的な評価を支援する。																	IEF/RURAP
a	Avaliar técnica de produção de mudas nos viveiros comunitários e plantação de mudas. コミュニティー苗床における苗木の生産と植林について技術的な評価を行う。																	IEF/RURAP
b	Avaliar sobre mortalidade de mudas, produtividade e crescimento anual. 苗木の枯死率、生産性、年間成長量について評価する。																	IEF/RURAP
c	Elaborar um material de divulgação sobre resultado das avaliações. 評価結果について普及用資料を作成する。																	IEF/RURAP
3-4	Prestar assistência aos membros de cada associação na organização da coleta e transporte de produtos agro-florestais e na promoção de condições favoráveis de comercialização. 各協会のメンバーに対し、アグロフォレストリー生産物の集荷、輸送及び有利販売の促進を支援する																	Guarabichaba M. Ferreira (IEF) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
a	Prestar assistência aos membros das associações para obter certificação dos produtos. 生産物の認証を取得するため協会のメンバーを支援する。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
a/1	Concientizar o benefício de obtenção de certificação. 認証取得のメリットについて理解を促す。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
a/2	Realizar diagnóstico de potencialidade para obtenção de certificação. 認証取得のための可能性について現状診断を行う。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
a/3	Realizar orientação para obter certificação dos produtos. 生産物の認証取得のための指導を行う。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
b	Presta assistência aos membros das associações para organização da coleta, transporte conjunto e comercialização de produtos agro-florestais. 農林産物の集荷、共同輸送、販売について協会のメンバーを支援する。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
b/1	Concientizar o benefício de organização da coleta, transporte conjunto e comercialização nos mercados apropriados. 集荷、共同輸送及び適切な市場における販売のメリットについて理解を促す。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
b/2	Realizar diagnóstico de potencialidade para organização da coleta, transporte conjunto e comercialização nos mercados apropriados. 集荷、共同輸送及び適切な市場における販売の可能性について現状診断を行う。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
b/3	Realizar orientação para organização da coleta e transporte conjunto, comercialização nos mercados apropriados. 集荷、共同輸送、適切な市場における販売について指導を行う。																	Ronaldo B. Souza (RURAP) Marcos A. Parro (SDR) Antônio C. Cruz (RURAP)
Resultado 4	Parceria entre os ribeirinhos e o setor moveleiro será criada e fortalecida. 川岸住民と家具産業の連携体制が構築され、強化される																	Juarez Oliveira (SEICOM)
4-1	Realizar reuniões periódicas entre as associações de agro-florestais e o Setor Moveleiro (SINDIMOVEIS/UNIMOVEIS/CADIMA) para trocar idéias/opiniões com vistas a estabelecer e fortalecer parcerias. 農林協会と家具業界 (SINDIMOVEIS/UNIMOVEIS/CADIMA) との間で、連携体制が構築、強化される																	Juarez Oliveira (SEICOM)
a	Realizar 1ª reunião de intercâmbio (principais tópicos selecionados pelo Setor Moveleiro). 第1回情報交換会議を行う(家具業界による議題)。																	Juarez Oliveira (SEICOM)
b	Realizar 2ª reunião de intercâmbio (principais tópicos selecionados pela associações). 第2回情報交換会議を行う(農林協会による議題)。																	Juarez Oliveira (SEICOM)
c	Realizar 3ª reunião de intercâmbio (principais tópicos selecionados pelo Setor Moveleiro). 第3回情報交換会議を行う(家具業界による議題)。																	Juarez Oliveira (SEICOM)

Handwritten signature or initials.

別添 2 最新 PO(PO4)

4-2	Prestar assistência à associação de agro-florestais na assinatura e execução de um contrato de fornecimento de madeira com o Setor Moveleiro do Amapá. 農林協会に対し、アマパ州家具組合 (UNIMOVEIS) との合法木材供給契約の署名及び履行を支援する																			Juarez Oliveira (SEICOM)
a	Realizar uma palestra sobre Setor Moveleiro do Amapá. アマパの家具業界に関する講演を行う。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
b	Realizar orientação sobre padrão, preço, quantidade e qualidade da madeira. 木材の規格、量、質に関する指導を行う。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
c	Realizar orientação sobre contrato de venda da madeira. 木材の売買契約に関する指導を行う。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
d	Realizar orientação sobre exploração da madeira, bem como serrará, classificará e entregará o produto conforme o contrato do Setor Moveleiro. 木材の伐採、製材、選別、家具業界との契約に基づく生産物の供給について指導を行う。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
4-3	Elevar a capacidade empresarial do Setor Moveleiro em desenvolvimento sustentável para fortalecer a parceria com a associação agro-florestais bem como para assegurar um mercado estável para a madeira legal. 農林協会との連携を強化し、合法材の安定した市場を確保するため、持続的開発のための家具業界の企業																			Joseman Pereira da Silva (SEBRAE) Juarez Oliveira (SEICOM)
a	Efetuar levantamento da situação dos moveleiros do Amapá. アマパの家具業者の実態調査を行う。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
a/1	Efetuar pesquisa do atual mercado de móveis no Estado (volume de produção, espécies de madeiras preferidas, desenho, faixa de preços, etc.) 州内の家具市場の現状(生産量、好まれる樹種、デザイン、価格帯など)の調査を行う。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
a/2	Efetuar levantamento das movelarias de Macapá sobre produção annual de móveis com utilização de madeira produzida na várzea. マカパ市内の家具業者による、氾濫原から生産される木材を用いた家具の年間生産高を調査する。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
a/3	Dentro das madeiras produzidas na várzea, pesquisar potencialidade das espécies adequadas para produção de móveis, bem como a potencialidade do volume de produção. 氾濫原から生産される木材のうち、家具生産に適した樹種及びその生産量のポテンシャルを調査する。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
a/4	Pesquisar a situação atual dos moveleiros (nível técnico, número de pessoas que trabalham na área, renda, sistema de gerenciamento, etc.) 家具加工業者の現状(技術レベル、従事者数、収入、経営形態など)を調査する。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
b	Realizar treinamento sobre tecnologia de valorização da madeira. 木材の価値を高めるための技術に関する研修を行う。																			Jozeman P. Silva (SEBRAE) Juarez Oliveira (SEICOM)
b/1	1º Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis. 第1回家具生産技術研修																			Jairo Alves Gomes (SEICOM)
b/2	2º Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.																			Jairo Alves Gomes (SEICOM)
b/3	3º Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.																			Jairo Alves Gomes (SEICOM)
b/4	4º Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.																			Jairo Alves Gomes (SEICOM)
b/5	5º Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.																			Juarez Oliveira (SEICOM)
b/6	6º Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.																			Juarez Oliveira (SEICOM)
b/7	7º Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.																			Juarez Oliveira (SEICOM)
b/8	Treinamento para técnica de fabricação de móveis e pequeno objetos (orientação individual). 家具及び生活小物の生産技術研修(個別指導)																			Juarez Oliveira (SEICOM)
b/9	Realizar seminários sobre madeiras e móveis. 木材及び家具に関するセミナーを開催する。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
c	Tornar a instalação do centro de treinamento de utilização pública para que os marceneiros possam utilizar. 研修施設を家具業者へ公開利用できるよう整備する。																			Juarez Oliveira (SEICOM)
d	Realizar levantamento sobre tipo de óleo vegetal extraído das sementes florestais da várzea para aplicar nos móveis. 氾濫原から採取される種子から搾油されるもので、家具用塗料に適したオイルについて調査する。																			Juarez Oliveira (SEICOM) Marcelo Calim (IEPA)
e	Participação em feiras nas cidades brasileiras. ブラジルの都市部におけるフェアに参加する。																			Jozeman P. Silva (SEBRAE) Juarez Oliveira (SEICOM)
e/1	Expor produtos na Feira de Equinox. エキノックス・フェアに生産物を展示する。																			Jozeman P. Silva (SEBRAE)
e/2	Participar na Expo-Feira. エキスポ・フェアに参加する。																			Jozeman P. Silva (SEBRAE) Juarez Oliveira (SEICOM)
e/3	Participar Feira em grande mercado nacional. 大都市におけるフェアに参加する。																			Jozeman P. Silva (SEBRAE) Juarez Oliveira (SEICOM)

別添3：プロジェクトの実績

本プロジェクトの投入、アウトプット、プロジェクト目標、及び上位目標の実績は以下に示すとおり。

(1) 投入の実績

PDMe/RDの計画	情報源/方法	実績 (特にことわりがない限り 2008年12月1日現在)																																																				
1 ブラジル側																																																						
1.1 カウンターパートプロジェクト・ディレクター、プロジェクト・マネージャー、関連州政府機関職員等	投入記録のレビュー	<p>現在、3つの実施機関(IEF, RURAP, SEICOM)から C/P12名が配置されている。さらに5つの協力機関 (IEPA, SDR, SENAI, SETEC, SEBRAE) から6名が C/Pとして配置されている。全員兼任である。</p> <p style="text-align: center;">表(1)-1.1a: 実施機関のプロジェクト管理 C/P</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロジェクトにおけるポジション</th> <th>人数</th> <th>機関/肩書き</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 プロジェクト・ディレクター</td> <td>1</td> <td>IEF 所長</td> </tr> <tr> <td>2 プロジェクト・マネージャー</td> <td>2</td> <td>RURAP 所長, SEICOM 局長</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表(1)-1.1b: 実施機関の技術 C/P</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当分野/アウトプット</th> <th>人数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">1 IEF (州政府)</td> <td>1</td> <td>ローカル・コーディネーター兼アウトプット 1&2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アウトプット 2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アウトプット 3</td> </tr> <tr> <td>2 RURAP (州政府)</td> <td>2</td> <td>アウトプット 3</td> </tr> <tr> <td>3 SEICOM (州政府)</td> <td>1</td> <td>アウトプット 4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表(1)-1.1c: 協力機関の技術 C/P</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当分野/アウトプット</th> <th>人数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 IEPA (州政府)</td> <td>1</td> <td>アウトプット 1</td> </tr> <tr> <td>2 SETEC (州政府)</td> <td>1</td> <td>アウトプット 2</td> </tr> <tr> <td>3 SDR (州政府)</td> <td>1</td> <td>アウトプット 3</td> </tr> <tr> <td>4 SENAI (連邦政府)</td> <td>2</td> <td>アウトプット 4</td> </tr> <tr> <td>5 SEBRAE (連邦政府)</td> <td>1</td> <td>アウトプット 4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>また、専任の事務職員1名 (IEF) がプロジェクトに配置されている。 詳細は資料 A-1</p>	プロジェクトにおけるポジション	人数	機関/肩書き	1 プロジェクト・ディレクター	1	IEF 所長	2 プロジェクト・マネージャー	2	RURAP 所長, SEICOM 局長	合計	3		担当分野/アウトプット	人数		1 IEF (州政府)	1	ローカル・コーディネーター兼アウトプット 1&2	3	アウトプット 2	2	アウトプット 3	2 RURAP (州政府)	2	アウトプット 3	3 SEICOM (州政府)	1	アウトプット 4	合計	9		担当分野/アウトプット	人数		1 IEPA (州政府)	1	アウトプット 1	2 SETEC (州政府)	1	アウトプット 2	3 SDR (州政府)	1	アウトプット 3	4 SENAI (連邦政府)	2	アウトプット 4	5 SEBRAE (連邦政府)	1	アウトプット 4	合計	6	
プロジェクトにおけるポジション	人数	機関/肩書き																																																				
1 プロジェクト・ディレクター	1	IEF 所長																																																				
2 プロジェクト・マネージャー	2	RURAP 所長, SEICOM 局長																																																				
合計	3																																																					
担当分野/アウトプット	人数																																																					
1 IEF (州政府)	1	ローカル・コーディネーター兼アウトプット 1&2																																																				
	3	アウトプット 2																																																				
	2	アウトプット 3																																																				
2 RURAP (州政府)	2	アウトプット 3																																																				
3 SEICOM (州政府)	1	アウトプット 4																																																				
合計	9																																																					
担当分野/アウトプット	人数																																																					
1 IEPA (州政府)	1	アウトプット 1																																																				
2 SETEC (州政府)	1	アウトプット 2																																																				
3 SDR (州政府)	1	アウトプット 3																																																				
4 SENAI (連邦政府)	2	アウトプット 4																																																				
5 SEBRAE (連邦政府)	1	アウトプット 4																																																				
合計	6																																																					
1.2 プロジェクト事務所、試験場等のための土地・施設	同上	<p>(1) プロジェクト・オフィス</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ プロジェクト開始から 2007年12月まで: マカパ市内の SEDE の一室に専門家及び日本側のローカルスタッフ、ブラジル側コーディネーター及び事務員のためのスペースが提供された。 ➤ 2008年1月から現在: 2008年1月、プロジェクト事務所はマカパ市内の IEF に移転した。現在、所長室に隣接する2室が事務所スペースとして提供されている。 <p>(2) その他、ブラジル側は、プロジェクトの運営に必要な以下の事務設備を提供した。</p> <p style="text-align: center;">表(1)-1.2: ブラジル側から供与された事務設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要な設備</th> <th>数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 オフィス机</td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 事務椅子</td> <td>8</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	主要な設備	数	備考	1 オフィス机	8		2 事務椅子	8																																												
主要な設備	数	備考																																																				
1 オフィス机	8																																																					
2 事務椅子	8																																																					

別添3：プロジェクトの実績

PDMe/RDの計画	情報源/方法	実績 (特にことわりがない限り 2008年12月1日現在)																							
		3	デスクトップPC	2	日本側は4セットのデスクトップPCを供与																				
		4	ノートPC	1																					
		5	オフィスロッカー	1																					
		6	電話線	2	直通回線 2																				
1.3 プロジェクト実施経費の支払い等	同上	<p>これまでのところ、プロジェクト実施経費として約 R\$410,586 が支出された。主要な費目は日当 (R\$235,569)、消耗品(R\$69,441)、電話代 (R\$50,779)、燃料費 (R\$34,658)等である。</p> <p>表 (1)1.3: ブラジル会計年度(1-12月)別の実施経費支出状況 単位=(R\$)</p> <table border="1" data-bbox="530 646 1422 750"> <thead> <tr> <th>BFY</th> <th>2005 (4月-)</th> <th>2006</th> <th>2007</th> <th>2008(~9 月末現在)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>0</td> <td>86,290</td> <td>291,329</td> <td>52,967</td> <td>410,586</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">詳細は資料 A-2</p>						BFY	2005 (4月-)	2006	2007	2008(~9 月末現在)	合計	金額	0	86,290	291,329	52,967	410,586						
BFY	2005 (4月-)	2006	2007	2008(~9 月末現在)	合計																				
金額	0	86,290	291,329	52,967	410,586																				
2 日本側																									
2.1 専門家派遣 (1)長期専門家(チーフ・アドバイザー/森林政策・管理技術、木材加工/プロジェクト・コーディネーター (2)短期専門家(現地の人材を含む)・アグロフォレストリー、マーケティング、環境教育、農村社会調査等	投入記録のレビュー	<p>(1) <u>長期専門家</u> プロジェクト開始時から、木材加工/プロジェクト・コーディネーター分野の専門家が1名派遣されている。</p> <p>(2) <u>短期専門家</u> これまでのところ、以下の分野の4名の専門家が合計6回派遣された： (i) チーフ・アドバイザー/森林管理 (3回)、(ii) チーフ・アドバイザー (1回)、(iii) ベースライン調査 (1回)、及び(iv) 市場調査 (1回)。</p> <p>表(1)2.1: 日本の会計年度(4-3月)別の短期専門家派遣状況</p> <table border="1" data-bbox="530 1180 1422 1285"> <thead> <tr> <th>日本の会計年度</th> <th>2005 (11月-)</th> <th>2006</th> <th>2007</th> <th>2008</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) <u>ローカル専門家</u> 2006年7月から、アグロフォレストリー分野の長期専門家が1名派遣されている。さらに、2008年度には、森林管理分野の短期専門家が1名(合計2回)派遣されている。</p> <p style="text-align: right;">詳細は資料 B-1</p>						日本の会計年度	2005 (11月-)	2006	2007	2008	合計	人数	2	2	1	1	6						
日本の会計年度	2005 (11月-)	2006	2007	2008	合計																				
人数	2	2	1	1	6																				
2.2 機器材の供与 車両、移動用ボート、木材加工器材、オフィス器材等	同上	<p>これまで、21,600 円の国際調達機材及び R\$371,954 の現地調達機材、あわせて 22,922 千円相当分の機材が調達された。主要器材は、2 台の車両、2 隻の大型ボート、2 隻の小型ボート、船外機 4 台、1 台のプロッター、4 台のデスクトップ PC、1 台のノート PC、2 台のコピー機などである。</p> <p>表 (1)-2.2: 日本の会計年度(4月-3月)別の機器材供与状況</p> <table border="1" data-bbox="518 1742 1433 1866"> <thead> <tr> <th>日本の会計年度</th> <th>2005(11月~)</th> <th>2006</th> <th>2007</th> <th>2008(~9月 末現在)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際調達(円)</td> <td>0</td> <td>21,600</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>21,600</td> </tr> <tr> <td>現地調達(R\$)</td> <td>259,359</td> <td>60,368</td> <td>48,980</td> <td>3,308</td> <td>371,954</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">詳細は資料 B-2</p>						日本の会計年度	2005(11月~)	2006	2007	2008(~9月 末現在)	合計	国際調達(円)	0	21,600	0	0	21,600	現地調達(R\$)	259,359	60,368	48,980	3,308	371,954
日本の会計年度	2005(11月~)	2006	2007	2008(~9月 末現在)	合計																				
国際調達(円)	0	21,600	0	0	21,600																				
現地調達(R\$)	259,359	60,368	48,980	3,308	371,954																				
2.3 本邦研修 森林政策/管理技術、木材加工等必要に応じて年2~3名	同上	<p>これまで、合計6名が以下の本邦研修に派遣された：(i)「地域住民の生計向上を組み込んだ自然環境プロジェクト」(合計2名)、(ii)「木材加工技術研修とアマパ州におけるブランド化戦略」(合計2名)、及び(iii)「自然農業と農業普及研修」(合計2名)</p> <p>表 (1)-2.3: 日本会計年度(4-3月)別の研修員受け入れ状況</p> <table border="1" data-bbox="518 2110 1442 2168"> <thead> <tr> <th>日本の会計年度</th> <th>2005(11月~)</th> <th>2006</th> <th>2007</th> <th>2008 (~9月末現在)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						日本の会計年度	2005(11月~)	2006	2007	2008 (~9月末現在)	合計												
日本の会計年度	2005(11月~)	2006	2007	2008 (~9月末現在)	合計																				

別添3：プロジェクトの実績

PDMe/RDの計画	情報源/方法	実績 (特にことわりがない限り 2008年12月1日現在)																	
		人数	0	2	2	2	6												
		詳細は資料 B-3																	
2.4 在外事業強化費	同上	<p>これまで、R\$1,442,179(約 88,012 千円)が在外事業強化費として支出された。アウトプット 0 関連経費 (R\$118,022)、アウトプット 1 関連経費(R\$6,600)、アウトプット 2 関連経費 (R\$104,798)、アウトプット 3 関連経費 (R\$60,317)、アウトプット 4 関連経費 (R\$52,659)、燃料(R\$17,345)、旅費及び消耗品等(R\$1,082,439)等である。</p> <p style="text-align: center;">表 (1)-2.3: 日本会計年度 (4-3 月) 別在外事業強化費支出状況 単位=R\$</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>日本の会計年度</th> <th>2005(11月~)</th> <th>2006</th> <th>2007</th> <th>2008 (~9月末現在)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支出額</td> <td>131,691</td> <td>478,709</td> <td>600,136</td> <td>183,101</td> <td>1,442,179</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">詳細は資料 B-4</p>						日本の会計年度	2005(11月~)	2006	2007	2008 (~9月末現在)	合計	支出額	131,691	478,709	600,136	183,101	1,442,179
日本の会計年度	2005(11月~)	2006	2007	2008 (~9月末現在)	合計														
支出額	131,691	478,709	600,136	183,101	1,442,179														

(2) アウトプットの実績

プロジェクトの要約 (PDMe 仮訳)	指標 (PDMe 仮訳)	情報源/方法	実績 (特にことわりがない限り 2008年12月1日現在)															
アウトプット 1 アマパ州政府に、プロジェクト・エリア内の氾濫原における森林資源の持続的利用のための技術的枠組が構築される	1.1 氾濫原の森林資源の持続的利用のための基本方針が 2008年11月までに策定される。	策定された基本方針の分析	アマパ州内の氾濫原の森林資源の持続的利用のための基本方針策定作業は、州・連邦政府 18 機関代表及び JICA 専門家から成る基本方針検討委員会の日程調整に時間がかかるため、計画より遅れている (詳細は別添 4「実施プロセス」参照)。しかし、基本方針案の策定は 2008年12月に完了し、第 8回 JCC 会合(2009年3月予定)に提出され、承認される見込みである。															
	1.2. 州政府内に氾濫原の森林資源の持続的利用を担当する機関が設置される (活動 1.3 関連)。	プロジェクト報告書の著房	2007年4月2日の法令 1077 号により、氾濫原の森林資源の持続的利用に関する政策執行を担当業務の一つとする機関として、アマパ州政府内に、アマパ州森林院 (IEF/AP) が設置され、2007年12月28日には定款が州知事によって承認された。															
アウトプット 2 森林の持続的管理が川岸住民によって行われる	2.1 各ターゲット・サイトにおいて、農林協会が立ち上がる。	IEF による調査	2006年に、各ターゲット・サイト (マラカ地区とマザゴン地区) において、農林協会が設置された。協会の基本情報は下表の通り。 <p style="text-align: center;">表 (2)-2.1: 協会の基本情報 (2008.11.8 現在)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>マラカ地区</th> <th>マザゴン地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設立日</td> <td>2006年7月</td> <td>2006年8月</td> </tr> <tr> <td>登録メンバー数</td> <td>128</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td>登録メンバーのうち、ターゲット・サイト内居住者数</td> <td>122 (M:77/ F:45)</td> <td>162 (M:110/F:52)</td> </tr> <tr> <td>協会に参加するターゲット・サイト内の家族数*1</td> <td>71</td> <td>117</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1: 協会は個人で参加しているため (家族単位の参加はない)、「協会に参加する家族数」とは、「一人以上の協会員がいる家族」としてカウントする。ちなみに、ターゲットサイト内にはマラカ地区で 76 家族、マザゴン地区で 124 家族が居住していると推定される (情報源: 2008.11 のプロジェクトによる調査)。</p>		マラカ地区	マザゴン地区	設立日	2006年7月	2006年8月	登録メンバー数	128	164	登録メンバーのうち、ターゲット・サイト内居住者数	122 (M:77/ F:45)	162 (M:110/F:52)	協会に参加するターゲット・サイト内の家族数*1	71	117
		マラカ地区	マザゴン地区															
設立日	2006年7月	2006年8月																
登録メンバー数	128	164																
登録メンバーのうち、ターゲット・サイト内居住者数	122 (M:77/ F:45)	162 (M:110/F:52)																
協会に参加するターゲット・サイト内の家族数*1	71	117																
2.2. 各ターゲット・サイトにおいて、プロジェクト終了までに、林業活動に携わる川岸生産者の 35%以上が、協会のメンバーになる。	同上	各ターゲット・サイトにおいて、伐採・製材などの林業活動に従事する川岸生産者の 35%以上が、協会のメンバーになっている (マラカ地区 93%、マザゴン地区 75%)。 <p style="text-align: center;">表(2)2.2: 林業活動に携わる川岸生産者数に対する協会メンバー数の割合</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>マラカ地区</th> <th>マザゴン地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		マラカ地区	マザゴン地区	割合												
	マラカ地区	マザゴン地区																
割合																		

別添3：プロジェクトの実績

プロジェクトの要約 (PDMe 仮訳)	指標 (PDMe 仮訳)	情報源 /方法	実績 (特にことわりがない限り 2008 年 12 月 1 日現在)	
			林業活動に携わる川岸生産者の合 計数 =(A)	42 名 20 名
			(A)のうち協会に登録している川 岸生産者の合計数=(B)	39 名 15 名
			(B)に対する(A)の割合	92.9% 75.0%
			情報源：2008 年 11 月のプロジェクトによる両農林協会会長へのインタビュー	
	2.3 各協会の森林管理 計画が承認される (計 2 つの森林管 理計画)。第 1 の管 理計画 (マラカ地 区) は、2009 年 2 月末までに、第 2 の管理計画 (マザ ゴン地区) は、プロ ジェクト終了時ま でに承認される。	同上	第 1 の森林管理計画 (正確な名称は、「コミュニティ型持続的森林管理計画」) 案作成作業は最終段階にある。第 1 及び第 2 の森林管理計画はまだ承認に至っていない。	
			<p>・ 第 1 の森林管理計画 (マラカ地区)： 森林管理計画案作成作業は、最終段階にある。しかし、外部条件により、2009 年 2 月までに第 1 の森林管理計画が承認される可能性は低くなっている。マラカ地区は INCRA のマラカ農業採集入植地 (以後、マラカ入植地) 内に位置するが、INCRA 入植地における森林管理計画作成・実施には、INCRA が事前に IMAP/SEMA から環境ライセンスを取得することが必要であり、その申請書類には INCRA の「入植地回復計画 (PRA)」が含まれる。マラカ入植地の PRA 案作成は外部機関に委託されており、作業が長引いており、INCRA は環境ライセンスの申請を行うことができないでいる。森林管理計画作成・承認にいたるまでの残りのステップを勘案すると、2009 年 2 月までに森林管理計画が承認される可能性は低く、現時点で、プロジェクト関係者は、承認時期を、プロジェクト終了直前の 2009 年 4 月末頃と予測している。(詳細は資料 C-1 参照)。</p> <p>しかし、承認にいたるまでのプロセスには、プロジェクトのコントロール外である行政手続きがいくつか含まれており、実際に 2009 年 4 月末頃またはプロジェクト終了までに承認される見込みは低い (詳細は別添 4「実施プロセス」参照)。一方、森林管理計画案作成作業など先行できる活動は同時並行的に進められており、森林管理計画案については、現在、作業は最終段階にある。従って、遅くとも 2009 年 6 月頃までには森林管理計画は承認されると推測される。</p> <p>・ 第 2 の森林管理計画 (マザゴン地区)： マザゴン地区では、森林管理計画作成・実施の前提となる川岸住民の土地利用/占有権の確立手続き、具体的には INCRA 入植地設立手続きが進行中である。この手続きが長引いているため、2008 年の乾季に予定されていた第 2 次森林調査 (100%インベントリー調査) を実施することはできなかった。2009 年の乾季はプロジェクト終了後であり、森林管理計画はプロジェクト終了後に作成・承認されることになる (詳細は「実施プロセス参照」)。</p>	
	2.4 承認された第 1 の 森林管理計画は、プ ロジェクト終了ま で、当該協会のメン バーにより、当該タ ーゲット・サイトの 計 144 ha で実践さ れる。	同上	<p>計画通り 2009 年 2 月までに、第 1 の森林管理計画が承認されれば、同計画の第 1 次年間活動計画はマラカ地区内の 144 ヘクタールにおいて実施される見込みである。</p> <p>・ 第 4 回プロジェクト運営委員会会議 (2007 年 9 月) において、マラカ地区の森林管理対象面積は参加メンバー一人あたり年間 4 ヘクタールとすることが合意された。参加を表明しているメンバーは、現時点で 36 名であり、第 1 次年間活動計画の年間総面積は 144 ヘクタールとなる。</p> <p>・ 森林管理計画実施 (維持管理・伐採・製材・搬出) に必要な調査・研修はほぼ計画通り行われており、承認が降りれば、ただちに計画を実施できる能力は備わっていると思われる。</p> <p>しかし、アウトプットの指標 2.3 で示したように、マラカ地区の森林</p>	

別添3：プロジェクトの実績

プロジェクトの要約 (PDMe 仮訳)	指標 (PDMe 仮訳)	情報源 /方法	実績 (特にことわりがない限り 2008 年 12 月 1 日現在)																												
			管理計画がプロジェクト終了までに承認される見込みは低く、同計画の実施はプロジェクト終了後になると見込まれる(2009年6月予定)。																												
アウトプット 3 アグロフォレストリー・システムが川岸住民によって確立される	3.1 各ターゲット・サイトにおいて、プロジェクト終了までに、川岸生産者の 35% 以上がアグロフォレストリーの計画作成に参加する。 (但し、3.1 では農林協会に登録したプロジェクト・エリアに居住する川岸住民を「川岸生産者」とする)	RURA P による情報提供	各ターゲット・サイトにおいて、川岸生産者(但し、農林協会に登録したプロジェクト・エリアに居住する川岸住民)のうち、アグロフォレストリーの計画作成に参加している割合を、家族数でみると 35% 以上が、アグロフォレストリー計画作成に参加している(マラカ地区 51%、マザゴン地区 47%)。 表 (2)-3.1a: 農林協会に登録したプロジェクト・エリアに居住する川岸生産者家族のうちアグロフォレストリー計画に参加した家族数の割合 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>マラカ地区</th> <th>マザゴン地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>協会に参加している家族の数=(A)</td> <td>71</td> <td>117</td> </tr> <tr> <td>プロジェクトの下、アグロフォレストリー計画に参加している家族の数=(B)</td> <td>36</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>(B) の (A) に対する割合</td> <td>50.7%</td> <td>47.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>情報源：2008 年 11 月のプロジェクトによる調査</p>		マラカ地区	マザゴン地区	協会に参加している家族の数=(A)	71	117	プロジェクトの下、アグロフォレストリー計画に参加している家族の数=(B)	36	55	(B) の (A) に対する割合	50.7%	47.0%																
	マラカ地区	マザゴン地区																													
協会に参加している家族の数=(A)	71	117																													
プロジェクトの下、アグロフォレストリー計画に参加している家族の数=(B)	36	55																													
(B) の (A) に対する割合	50.7%	47.0%																													
	3.2 プロジェクト終了までに、両ターゲット・サイトの計 60ha において、協会のメンバーによってアグロフォレストリーが実施される。	同上	これまでのところ、両ターゲット・ターゲット内の合計 148 ヘクタールにおいて、協会のメンバーによって、持続的アグロフォレストリー(SAF)が実施されている。 表 (2)-3.2: プロジェクトの下、持続的アグロフォレストリーが実施されている面積 (ha) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>マラカ地区</th> <th>マザゴン地区</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2006-2007 年の雨季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>2007 年の乾季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>2007 年の雨季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>2008 年の乾季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>プロジェクト開始後にアサイの管理が導入された天然林の面積</td> <td>28</td> <td>73</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>55</td> <td>93</td> <td>148</td> </tr> </tbody> </table>		マラカ地区	マザゴン地区	合計	2006-2007 年の雨季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積	8	9	17	2007 年の乾季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積	7	4	11	2007 年の雨季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積	9	7	16	2008 年の乾季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積	3	0	3	プロジェクト開始後にアサイの管理が導入された天然林の面積	28	73	101	合計	55	93	148
	マラカ地区	マザゴン地区	合計																												
2006-2007 年の雨季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積	8	9	17																												
2007 年の乾季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積	7	4	11																												
2007 年の雨季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積	9	7	16																												
2008 年の乾季にアサイ及びその他の作物が植えられた面積	3	0	3																												
プロジェクト開始後にアサイの管理が導入された天然林の面積	28	73	101																												
合計	55	93	148																												
	3-3 プロジェクト終了までに、プロジェクトの経験に関する報告書が作成される。	同上	「プロジェクトの経験に関する報告書」には、活動 3-3 下で作成される技術評価報告書類、これまでの経験をまとめた普及用資料、及びプロジェクトの経験を整理した報告書が含まれる。技術評価報告書類については、2008 年 12 月に技術者による評価方法に関する会議が開催される予定であり、プロジェクト終了までには、技術評価が実施され、報告書がプロジェクト・ディレクターに提出される見込みである。普及用資料については、作業が進行中である。技術評価の結果を踏まえて加筆・修正され、プロジェクト終了までに完成され、プロジェクト・ディレクターに提出される見込みである。																												
アウトプット 4 川岸住民と家具業者の連携が構築され、強化される	4.1 プロジェクト終了までに、一つの農林協会と家具組合との間に一つの木材供給契約が締結される。	SEIC OM による情報提供	マラカ地区の農林協会とアマパ州の家具組合 (UNIMOVES) の間の木材供給契約は、契約の前提となる同地区の森林管理計画の作成・承認が完了しておらず、まだ作成・締結されていない(指標 2.3 参照)。森林管理計画は 2009 年 4 月末頃までに承認されることが期待されているが、実際にその時期までに森林管理計画が承認される見込みは低く、木材供給契約がプロジェクト終了までに締結される可能性は低いといえる。 家具組合の事情：家具組合は、マラカ地区から産出予定の合法材に関心をもっており、木材供給契約締結にも積極的である。2008 年 8-9 月には、契約に関する協議の事前準備として、家具組合代表等がマラ																												

別添3：プロジェクトの実績

プロジェクトの要約 (PDMe 仮訳)	指標 (PDMe 仮訳)	情報源 /方法	実績 (特にことわりがない限り 2008年12月1日現在)
			<p>カ地区 (及びマザゴン地区) を訪問し、農林協会代表らに対して、アマパの家具業界に関する説明会を開催して、意見交換を行い(合計 2 回)、信頼関係が構築されつつある。しかし、価格・規格等に関する農林協会との本格協議は始まっていない。家具組合は、合法材産出が確実となるタイミング、すなわち森林管理計画の承認をもって協議を始めたいと考えているからである。仮に現時点での予測どおり、2009年4月末頃に森林管理計画が承認されても、プロジェクト終了(2009年5月1日)までに契約がまとまり、締結される可能性は、時間的にみて低い。ただし、承認後すみやかに契約が締結されるように、コミュニケーションをとっている。</p> <p>農林協会の事情：木材供給契約実行にあたっては、共同集荷・販売・出荷が求められる。しかし、協会には、共同集荷・販売・出荷の経験がなく、そのための協会内部のルールづくりが必要になる。アグロフォレストリー生産物分野では、2008年12月から、この点に関する現状診断・指導が予定されているが、木材分野については、PO に関連活動もなく、これまで、プロジェクト内でもその必要性が議論されておらず、早急な対応が望まれる。</p>
	4-2. プロジェクト終了までに、木材供給契約に従い、1 箇所ターゲット・サイトから合法的に生産された木材が、家具組合に納品される。	同上	<p>上記 4.1 に記したように木材供給契約がプロジェクト終了までに締結される可能性は低い。また、木材供給契約締結後、実際に家具組合に合法材が納品されるまでには、協会による伐採・製材・原産地証明書作成・搬出作業が行われる必要がある。プロジェクト終了までに、マラカ地区から産出された合法材が家具組合に納品される見込みは、低いと思われる。なお、アウトプット指標 2.3 で記したように、森林管理計画は、遅くとも 2009年6月頃までには承認され、それ以降に納品される見込みである。</p>
	4-3. プロジェクト終了までに、7回の研修を通じて、氾濫原の木材の利用に関する家具職人の技術力が向上される(但し、「技術力が向上される」は「新しく導入された技術による、合法化されコストアップした氾濫原の木材を利用した家具の製造に必要なレベルに達すること」を意味する)		<p>当指標は、複数の要素から構成されている。</p> <p>対象者：当指標の対象は家具職人である。これまでのところ、研修には、アマパ州の家具企業 18 社の職人 27 名が参加した。SEICOM の調査(2008年)によれば、アマパ州全体の家具企業数は 230 社だとみられるので、7%の企業が研修に職人を派遣したことになる。またアマパ州家具組合参加企業に限定すると、109 社中 6%にあたる 7 社が職人 17 名を研修に派遣したことになる。当指標の「家具職人」は十分に定義されておらず、これらの数値をもって計画された目標を達したかどうかを判断することは不可能である。</p> <p>研修回数：これまで、計画通り、5 回の研修が実施され、プロジェクト終了まで後 2 回が実施される予定である(合計 7 回)。一方、研修生のうち、5 回連続の参加者は、27 名(18 社)のうち 1 名(1 社)で、3 回が 2 名(2 社)、2 回が 5 名(5 社)で、残りの 20 名(12 社)は 1 回のみ受講である。しかし、当指標の「7 回の研修を通じて」が連続受講を指すのか、1 回以上の受講を指すのか、明確ではなく、これらの数値をもって計画された目標を達したかどうかを判断することは不可能である。</p> <p>技術の習得状況：木工分野の専門家によれば、大部分の研修生は、受講した研修の内容を理解し、実習があった技術については技術を習得したと判断できるとのことである。また、アマパ州家具組合会長 SEICOM 局長、SEICOM の C/P、及び SENAI の C/P は、木工分野の研修を評価しており、研修が受講生の技術向上につながったとみている。しかし、研修時・事後の技術評価が行われておらず、この点に</p>

別添 3：プロジェクトの実績

プロジェクトの要約 (PDMe 仮訳)	指標 (PDMe 仮訳)	情報源 /方法	実績 (特にことわりがない限り 2008 年 12 月 1 日現在)																														
			<p>関する客観的に検証可能な情報は存在しない。</p> <p>これまで 2 回以上研修を受講した 8 名 (5 社) のうち 5 名 (5 社) について、木材加工分野の評価団員が技術チェックを行ったところ、全員の習得状況が家具製造に必要なレベルに達していると確認された。また、受講した研修に対する評価も高かった。残りの研修生 21 名については、時間的制約から、習得状況は未確認である。</p> <p><u>家具市販実績</u>：2008 年 11 月にプロジェクトが電話で行った聞き取りに対し、研修受講者中、約 85%にあたる 23 名が研修で習得した技術を利用して家具を製造・市販した実績があると回答している。従って、当研修は、おおむね家具製造に有用であったと判断される。ただし、当指標には家具市販実績に関する計画値がなく、これらの数値をもって計画された目標を達したかどうかを判断することは不可能である。</p> <p style="text-align: center;">表 (2)-4.3a: 研修で習得した技術を使った家具製造・市販実績</p> <table border="1" data-bbox="721 885 1357 1089"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>全体に対する割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>すべての習得技術を利用した製造・市販実績あり</td> <td>6</td> <td>22.2%</td> </tr> <tr> <td>一部の習得技術を利用した製造・市販実績あり</td> <td>17</td> <td>63.0%</td> </tr> <tr> <td>製造・市販実績なし</td> <td>3</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>その他 (廃業)</td> <td>1</td> <td>3.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>コストアップ</u>：2008 年 11 月にプロジェクトが電話で行った聞き取りに対し、研修受講者中、約 82%にあたる 22 名が研修で習得した技術を利用して製造した家具はコストアップしたと回答している。従って、当研修はおおむねコストアップに寄与したと判断される。ただし、当指標にはコストアップに関する計画値がなく、計画された目標を達成したかどうかを判断することは不可能である。</p> <p style="text-align: center;">表 (2)-4.3b: 研修で習得した技術を使った家具のコストアップ実績</p> <table border="1" data-bbox="732 1396 1349 1545"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>全体に対する割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コストアップした</td> <td>15</td> <td>55.6%</td> </tr> <tr> <td>多少コストアップした</td> <td>7</td> <td>25.9%</td> </tr> <tr> <td>コストアップしていない</td> <td>4</td> <td>14.8%</td> </tr> <tr> <td>その他 (廃業)</td> <td>1</td> <td>3.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>氾濫原の木材利用状況</u>：2008 年 11 月にプロジェクトが電話で行った聞き取りに対し、これまで研修に受講生を派遣した 17 社のほとんど (16 社) が家具製造に氾濫原の木材を利用していると回答している。研修は、氾濫原の木材を利用した家具製造に貢献したといえよう。</p> <p><u>ターゲット・サイトから産出予定の合法材への関心</u>：アマパ州の家具業界は合法材の安定的確保に強い関心を抱いている。2008 年 11 月にプロジェクトが電話で行った聞き取りに対し、氾濫原木材を家具製造に利用している 16 社のほとんど (15 社) が、ターゲット・サイトから産出予定の合法材の利用に関心をもっていると回答している。現状では、ターゲット・サイトの農林協会と家具組合との間に木材供給契約はまだ締結されておらず、これらの企業が実際にターゲット・サイトから産出される合法材を購入するかどうかは不確定だが、研修の結果が、合法材を利用した家具製造につながる可能性が充分あるといえる。</p>		人数	全体に対する割合	すべての習得技術を利用した製造・市販実績あり	6	22.2%	一部の習得技術を利用した製造・市販実績あり	17	63.0%	製造・市販実績なし	3	11.1%	その他 (廃業)	1	3.7%		人数	全体に対する割合	コストアップした	15	55.6%	多少コストアップした	7	25.9%	コストアップしていない	4	14.8%	その他 (廃業)	1	3.7%
	人数	全体に対する割合																															
すべての習得技術を利用した製造・市販実績あり	6	22.2%																															
一部の習得技術を利用した製造・市販実績あり	17	63.0%																															
製造・市販実績なし	3	11.1%																															
その他 (廃業)	1	3.7%																															
	人数	全体に対する割合																															
コストアップした	15	55.6%																															
多少コストアップした	7	25.9%																															
コストアップしていない	4	14.8%																															
その他 (廃業)	1	3.7%																															

別添3：プロジェクトの実績

(3) プロジェクト目標の実績

プロジェクトの要約 (仮訳)	指標 (PDMe) (仮訳)	情報源/ 方法	結果 (特にことわりがない限り 2008 年 12 月 1 日現在)																																																																																			
アマバ州 氾濫原の プロジェクト・エ リアにおい て、川岸住 民の生計 向上に資 する森林 資源活 用の方法 が改善さ れる	プロジェクト 終了時に開始 時と比べて	IEF への インタビュー	これまでのところ、ターゲット・サイト (マラカ地区) から合法的に伐採された木材はない。アウトプットの指標 2.3 で記したように、プロジェクト終了までに承認される見込みは低い。従って、プロジェクト終了までに合法伐採が始まる可能性は低いと思われる。																																																																																			
	1. ターゲット・ サイト (マ ラカ地区) にお いて、承認さ れた森林管理 計画に従い、 合法的に伐採 された木材の 量が、200 m ³ になる。	RURAP の調査	プロジェクトが扱うアグロフォレストリー生産物のうち、プロジェクト終了までに収穫されるものは、農地に植えられた単年作物と一部の果樹作物 (バナナとパパイヤ) 及び天然林管理によるアサイである。これまでのところ、下表に示すように、プロジェクトエリア (マラカ及マザゴン地区) において合計 1,120 トンのアグロフォレストリー生産物が収穫されている。																																																																																			
	2. 両ターゲッ ト・サイト (マ ラカ地区、マ ザゴン地区) において、プ ロジェクトの 支援で導入ま たは技術改善 されたアグロ フォレストリー 生産物の量 が、500 トン まで増加す る。		<p>表 (3)-2.1: ターゲット・サイトにおける アグロフォレストリー生産物の生産量(トン)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">これまで収穫されたアグロフォレストリー生産物</th> <th>マラカ 地区</th> <th>マザゴン 地区</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">農地の単年作物</td> <td>メイズ</td> <td>16.5</td> <td>10.1</td> <td>26.6</td> </tr> <tr> <td>スイカ</td> <td>8.7</td> <td>2.1</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td>カボチャ等</td> <td>2.9</td> <td>2.1</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">農地の果樹作物</td> <td>バナナ</td> <td>50</td> <td>22.6</td> <td>72.6</td> </tr> <tr> <td>パパイヤ*1</td> <td>n/a</td> <td>n/a</td> <td>n/a</td> </tr> <tr> <td>天然林管理の果実</td> <td>アサイ</td> <td>240</td> <td>765</td> <td>1005</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>318.1</td> <td>801.9</td> <td>1120</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1 パパイヤは 2008 月の雨季に、浸水の影響で壊滅的な打撃を受け、生産量不明、継続調査困難。</p> <p>参考までに、農地に植えられた主要アグロフォレストリー作物の最初の収穫期は下表に示す通り。</p> <p>表 (3)-2.2: 農地に植えられた主要アグロフォレストリー生産物の 最初の収穫時期</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">農地の主要アグロフォレストリー生産物</th> <th>植え付け時期</th> <th>想定される最初の 収穫時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">単年作物</td> <td>メイズ</td> <td>2007 年 6 月</td> <td>2007 年 8-11 月</td> </tr> <tr> <td>スイカ</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>カボチャ等</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">果樹作物</td> <td>バナナ</td> <td>2007 年 6-8 月</td> <td>2008 年 8 月</td> </tr> <tr> <td>パパイヤ</td> <td>2007 年 12 月</td> <td>2008 年 8 月</td> </tr> <tr> <td>アサイ</td> <td>①2006 年 12 月 ②2007 年 6-8 月</td> <td>①2011 年 4 月 ②2012 年 4 月</td> </tr> <tr> <td>クブアス</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>カカオ</td> <td>2006 年 12 月- 2007 年 2 月</td> <td>2010 年 1 月</td> </tr> <tr> <td>アセロラ</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>カムカム</td> <td>2007 年 12 月</td> <td>2009 年 1 月</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">木材樹種 *2</td> <td>アンジロバ</td> <td>2007 年 6-8 月</td> <td>約 20-30 年後</td> </tr> <tr> <td>セドロ</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>マカカウバ</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table>	これまで収穫されたアグロフォレストリー生産物		マラカ 地区	マザゴン 地区	合計	農地の単年作物	メイズ	16.5	10.1	26.6	スイカ	8.7	2.1	10.8	カボチャ等	2.9	2.1	5.0	農地の果樹作物	バナナ	50	22.6	72.6	パパイヤ*1	n/a	n/a	n/a	天然林管理の果実	アサイ	240	765	1005	合計		318.1	801.9	1120	農地の主要アグロフォレストリー生産物		植え付け時期	想定される最初の 収穫時期	単年作物	メイズ	2007 年 6 月	2007 年 8-11 月	スイカ	同上	同上	カボチャ等	同上	同上	果樹作物	バナナ	2007 年 6-8 月	2008 年 8 月	パパイヤ	2007 年 12 月	2008 年 8 月	アサイ	①2006 年 12 月 ②2007 年 6-8 月	①2011 年 4 月 ②2012 年 4 月	クブアス	同上	同上	カカオ	2006 年 12 月- 2007 年 2 月	2010 年 1 月	アセロラ	同上	同上	カムカム	2007 年 12 月	2009 年 1 月	木材樹種 *2	アンジロバ	2007 年 6-8 月	約 20-30 年後	セドロ	同上	同上	マカカウバ	同上	同上
これまで収穫されたアグロフォレストリー生産物		マラカ 地区	マザゴン 地区	合計																																																																																		
農地の単年作物	メイズ	16.5	10.1	26.6																																																																																		
	スイカ	8.7	2.1	10.8																																																																																		
	カボチャ等	2.9	2.1	5.0																																																																																		
農地の果樹作物	バナナ	50	22.6	72.6																																																																																		
	パパイヤ*1	n/a	n/a	n/a																																																																																		
天然林管理の果実	アサイ	240	765	1005																																																																																		
合計		318.1	801.9	1120																																																																																		
農地の主要アグロフォレストリー生産物		植え付け時期	想定される最初の 収穫時期																																																																																			
単年作物	メイズ	2007 年 6 月	2007 年 8-11 月																																																																																			
	スイカ	同上	同上																																																																																			
	カボチャ等	同上	同上																																																																																			
果樹作物	バナナ	2007 年 6-8 月	2008 年 8 月																																																																																			
	パパイヤ	2007 年 12 月	2008 年 8 月																																																																																			
	アサイ	①2006 年 12 月 ②2007 年 6-8 月	①2011 年 4 月 ②2012 年 4 月																																																																																			
	クブアス	同上	同上																																																																																			
	カカオ	2006 年 12 月- 2007 年 2 月	2010 年 1 月																																																																																			
	アセロラ	同上	同上																																																																																			
	カムカム	2007 年 12 月	2009 年 1 月																																																																																			
木材樹種 *2	アンジロバ	2007 年 6-8 月	約 20-30 年後																																																																																			
	セドロ	同上	同上																																																																																			
	マカカウバ	同上	同上																																																																																			

別添3：プロジェクトの実績

プロジェクトの要約 (仮訳)	指標 (PDMe) (仮訳)	情報源/ 方法	結果 (特にことわりがない限り 2008 年 12 月 1 日現在)															
			<table border="1"> <tr> <td>アカブ</td> <td>①2007年6-8月 ②2007年12月- 2008年2月</td> <td>約30年後</td> </tr> <tr> <td>チーク</td> <td>同上</td> <td>約20年後</td> </tr> <tr> <td>モギノ</td> <td>同上</td> <td>約25年後</td> </tr> <tr> <td>ビローラ</td> <td>育苗中</td> <td>約15年後</td> </tr> <tr> <td>ジャトバ</td> <td>同上</td> <td>約25年後</td> </tr> </table> <p>*2 現在、木材樹種はPDMの「アグロフォレストリー生産物」の定義に含まれていない</p>	アカブ	①2007年6-8月 ②2007年12月- 2008年2月	約30年後	チーク	同上	約20年後	モギノ	同上	約25年後	ビローラ	育苗中	約15年後	ジャトバ	同上	約25年後
アカブ	①2007年6-8月 ②2007年12月- 2008年2月	約30年後																
チーク	同上	約20年後																
モギノ	同上	約25年後																
ビローラ	育苗中	約15年後																
ジャトバ	同上	約25年後																
	3. ターゲット・サイト(マラカ地区)において、生産され、家具用に規格化・販売される合法木材の量が、50 m ³ に増加する。	SEICOMの調査	<p>マラカ地区において、プロジェクト終了までに家具用に規格化され、販売される合法材が産出される可能性は、アウトプットの指標 4.2 で記したように、現時点では低いと思われる。</p> <p>また、規格及び販売量について、家具組合は、合法材産出が確実となるタイミング、すなわち森林管理計画の承認をもって農林協会と協議を始めたいとの意向をもっており、現時点で、家具用に規格化・販売される合法材の量について予測することは困難である。</p>															

(4) 上位目標達成の見込み

プロジェクトの要約 (仮訳)	指標 (PDMe) (仮訳)	情報源/ 方法	予測
アマバ州 氾濫原の プロジェクト・エリアの森林資源が持続的に活用され、川岸住民の生計が改善される。	1. アマバ州におけるプロジェクト・エリアの氾濫原において、森林管理計画が協会により継続的に実施される。	IEF、農林協会、SEICOM、家具組合への質問票とインタビュー	<p>プロジェクト終了から3年後(2012年5月)以降に、プロジェクト・エリアの氾濫原において、森林管理計画が各協会により実施されている可能性はあると見込まれる。</p> <p><u>森林管理計画承認の見込み</u>：両ターゲット・サイトにおける森林管理計画は、遅くともプロジェクト終了から1年後までには承認される見込みである。</p> <p>マラカ地区においては、アウトプットの指標 2.3 で記したように、現時点で、森林管理計画の承認は2009年4月末と予測されているが、承認にいたるまでのプロセスには、プロジェクトのコントロール外である行政手続きがいくつか含まれており、実際に2009年4月末頃またはプロジェクト終了までに承認される見込みは低い。一方、森林管理計画案作成作業など先行できる活動は同時並行的に進められており、森林管理計画案については、現在、作業は最終段階にある。従って、遅くとも2009年6月頃までには森林管理計画は承認されると期待される。</p> <p>マザゴン地区における森林管理計画作成・承認には、同地区住民(農林協会メンバー)の土地利用/占有権の確立が前提条件となっている。土地関係当局の協力により、INCRAの入植地の設立手続きが進行中であり、入植地設立は2009年6月頃と予測されている。しかし、この後、森林管理計画作成・承認にいたるプロセスは何段階もあり、その一部は実施機関のコントロール外である(資料C-2参照)。このため、現時点で、残りのプロセスにどの程度時間がかかるかは予測しがたい。森林管理計画作成に必要な森林調査(100%インベントリー調査)は2-3ヶ月を要するが、乾季に行われる必要があり、遅くとも10月に開始されることが望まれる。2009年10月までに必要なプロセスが完了し、2009年の乾季中に</p>

別添3：プロジェクトの実績

プロジェクトの要約(仮訳)	指標 (PDMe) (仮訳)	情報源/方法	予測
			<p>森林調査を実施することができれば、順調にいけば、森林管理計画は 2010 年 5 月頃までには承認されることが期待される。</p> <p><u>農林協会の意欲</u>：両ターゲット・サイトの協会代表への質問票回答及びインタビュー結果によれば、両協会とも森林管理計画作成・実施の意欲をもっている。</p> <p><u>農林協会メンバーの関心</u>：2008 年 11 月にマラカ地区で行われた家具組合との情報交換会には、農林協会役員を含め、協会メンバー約 20 名が参加した。一方、同月にマザゴン地区で行われた情報交換会には出席者が少なく、マラカ地区に比べて、協会員の関心の低さがうかがえる。同地区では、土地利用/占有権の確立に時間がかかっているおり、森林管理計画作成にかかるプロジェクト活動がほとんど実施されていないことが、現時点における関心の低さの理由の一つだと推測される。</p> <p><u>IEF による技術支援</u>：アマパ州政府の多年度計画 (2008-2011 年) に「コミュニティ型持続的森林管理の支援」「アサイ林の管理」が含まれており、担当機関には IEF が任命されている。また、IEF 所長であるプロジェクト・ディレクターは、プロジェクト終了後の両地区への継続的支援を表明している。さらに、SEBRAE の「持続的木材プロジェクト」(2008-2010 年) に、「マラカ農業採集入植地における、森林管理計画の重要な活動を促進することにより、コミュニティ森林管理を促進」するための活動 (2008 年 7 月 1 日～2010 年 12 月 30 日) が含まれており、約 92,000 レアルの予算が計上されている。実施の責任機関は IEF であり、同活動のコーディネーターは、本プロジェクトの技術 C/P でもある IEF 職員が務めている。</p> <p><u>合法材の需要</u>：アマパ州の家具業界は合法材の安定的確保に強い関心を抱いている。本プロジェクトにおける合法材産出が計画より遅れていることから、アマパ州家具組合は、プロジェクトの協力により、承認された森林管理計画のあるアマパ州のノバ・コリーナ入植地¹とコンタクトを取り、合法材供給に関する交渉を行った。既に契約は締結され、2008 年 12 月には、合法材 (10 立米程度) が初めて納品される見込みである。</p> <p><u>木材供給契約締結の可能性</u>：アマパ州家具組合はマラカ地区及びマザゴン地区の農林協会との木材供給契約締結に積極的な意欲を示している。同組合は、森林管理計画が承認されれば規格・価格・量などに関する協議を始めたいとの意向を示している。家具組合だけではなく、アマパ州家具企業連合、アマパ州家具産業開発支援センター (CADIMA)、及び監督官庁である SEICOM も、両地区との木材供給契約締結を支持している。</p>
	2. プロジェクト・エリアでプロジェクトの支援で導入または技術改善されたアグロ	RURAP の調査、IEF、RURAP、農林協会への	プロジェクト終了時から 5 年後まで (2014 年 4 月末まで) に、両ターゲット地区からのアグロフォレストリー生産物の生産量の合計が最低 700 トンに達する可能性は、病虫害・自然災害等の自然条件の影響、生産物需要や価格の大規模な下落を含む経済的影響などの外部要

¹同入植地はテラ・フィルム (浸水しない土地) に位置する。

別添3：プロジェクトの実績

プロジェクトの要約(仮訳)	指標 (PDMe) (仮訳)	情報源/方法	予測																																																					
	<p>フォレストリー生産物の生産量がプロジェクト終了後5年目までに最低700トンまで増加する(5年間で700トン)。</p>	<p>質問票・インタビュー</p>	<p>因の影響を受けない限り、充分あると予測される。</p> <p>両地区の年間総生産量：2007年と2008年の11月時点での両地区の総生産量を比較すると、1年間あたりの総生産量は866トンとなり、既に指標の計画値を超えている(表(3)-2.1a)。さらに、2011~2012年以降には、2006年以降に植えた果樹作物(アサイ、クブアス、カカオ、アセロラ、カムカム)の収穫も見込まれる。</p> <p>農林協会の意欲：両ターゲット・サイトの協会代表への質問票回答及びインタビュー結果によれば、両協会ともプロジェクトで導入されたアグロフォレストリー活動の継続に意欲を示している。</p> <p>農林協会メンバーの関心：2007年11月と2008年11月の両地区のアグロフォレストリー参加家族数を比較すると、1年間で合計32家族増加しており、プロジェクトの進捗とともに、川岸住民のアグロフォレストリーへの関心が増していることがうかがえる(表(3)-2.1b)。</p> <p>IEF及びRURAPによる技術支援：IEF所長及びRURAP所長は、両地区におけるアグロフォレストリー分野の継続的支援を表明している。</p> <p>表 (3)-2.1a: アグロフォレストリー生産物の両地区の総生産量(トン) 2007年11月、2008年11月の比較</p> <table border="1" data-bbox="674 1134 1433 1412"> <thead> <tr> <th colspan="2">これまでに収穫されたアグロフォレストリー生産物</th> <th>2007/11 現在</th> <th>2008/11 現在</th> <th>増加量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">農地の単年作物</td> <td>メイズ</td> <td>10.6</td> <td>26.6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>スイカ</td> <td>2.8</td> <td>10.8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>カボチャ等</td> <td>1.0</td> <td>5.0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">農地の果樹作物</td> <td>バナナ</td> <td>0</td> <td>72.6</td> <td>72.6</td> </tr> <tr> <td>パパイヤ</td> <td>0</td> <td>n/a</td> <td>n/a</td> </tr> <tr> <td>管理天然林の果実</td> <td>アサイ</td> <td>240</td> <td>1005</td> <td>765</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>254.4</td> <td>1120</td> <td>865.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 (3)-2.1b:アグロフォレストリー参加家族数 2007年11月、2008年11月の比較</p> <table border="1" data-bbox="707 1505 1400 1652"> <thead> <tr> <th></th> <th>2007/11</th> <th>2008/11</th> <th>増加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マラカ地区</td> <td>23</td> <td>36</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>マザゴン地区</td> <td>36</td> <td>55</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>59</td> <td>91</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	これまでに収穫されたアグロフォレストリー生産物		2007/11 現在	2008/11 現在	増加量	農地の単年作物	メイズ	10.6	26.6	16	スイカ	2.8	10.8	8	カボチャ等	1.0	5.0	4	農地の果樹作物	バナナ	0	72.6	72.6	パパイヤ	0	n/a	n/a	管理天然林の果実	アサイ	240	1005	765	合計		254.4	1120	865.6		2007/11	2008/11	増加数	マラカ地区	23	36	13	マザゴン地区	36	55	19	合計	59	91	32
これまでに収穫されたアグロフォレストリー生産物		2007/11 現在	2008/11 現在	増加量																																																				
農地の単年作物	メイズ	10.6	26.6	16																																																				
	スイカ	2.8	10.8	8																																																				
	カボチャ等	1.0	5.0	4																																																				
農地の果樹作物	バナナ	0	72.6	72.6																																																				
	パパイヤ	0	n/a	n/a																																																				
管理天然林の果実	アサイ	240	1005	765																																																				
合計		254.4	1120	865.6																																																				
	2007/11	2008/11	増加数																																																					
マラカ地区	23	36	13																																																					
マザゴン地区	36	55	19																																																					
合計	59	91	32																																																					